資料第五十三号
昭和三十四年三月

インドシナ三国事情

——兵庫農科大学座談会記録——

社団法人 アジア協会

国際協力事業団

受入 月日 '84. 9. 13	109
	81.1
登録No. 15017	AS

200
9.0
A

はしがき

兵庫農科大学には熱帯農業の研究者または経験者が多数在職しておられる。同大学にて実施したカンボジイア学術調査に従事せる裁培学担当教授佐藤孝、農業経済学担当助教授高山敏弘の両氏は一九五七年一月より五月までの四カ月間、自動三輪車を馳って同国内を調査され、ついで同大学植物学担当教授浜田秀男氏は一九五七年九月より十二月までの四カ月にわたり、日本民族学協会主催の東南アジア稲作民族調査旅行に参加されインドシナ三国およびタイ国の稲の調査に従事された。さらに一九五七年三月より一九五八年三月までの一カ年間コロンボ・プランの専門家として南ベトナムに在任、稲の品種改良を指導された同大学工芸作物学担当教授松尾浩気氏も参加されて、同大学移民学担当教授野中時雄氏の司会のもとに、インドシナ三国事情についての座談会が催された。

この座談会記録に載せられているところは、主として前記各学究の調査研究の成果というよりは、むしろ、インドシナ三国の一般的事情についての経験談であるが、東南アジアの周地域に興味をもつ人、あるいはこんど調査実施をこころみ、または渡航希望の人々の参考に資するため、ここに刊行する次第である。

社団法人　アジア協会

JICA LIBRARY
1048290[9]

目次

第一部　旅行の一般事項……1
一、出発までの準備……1
二、出発より入国まで……3
三、携行品について……6
四、現地生活の問題……8
1　金銭出納と言語……8
2　衣食住について……9
3　治安の状態……13
五、現地人との接触……15
六、交通事情……21
第二部　インドシナ三国の産業……25
一、一般経済状態……25
1　都市と農村の比較……25
2　物資の流通状態……26
3　物価と生活水準……29
4　華　僑……32
二、農業地の条件……35
三、農業技術及び経営……44
1　稲　作……44
2　果物、蔬菜……48
3、技術上の問題点……52
4　農家調査(農具、家具、家畜)……54
四、工業その他の産業……57

第一部　旅行の一般事項

一、出発までの準備

野中　それでは本日、インドシナ三国およびタイ国について調査旅行された、佐藤、高山、浜田さん、コロンボ・プランで同地域においでになった松尾さんの四人の方に、忌憚のない所見を伺って、将来この方面への調査旅行に行かれる人々への参考となるような助言を得るために座談会を開きたいと思います。

その出発までにいろいろな準備があり、殊に、カンボジイア旅行の如きは始めてのことで、あれこれと面倒な手続きがあったのですが、それについて、佐藤さんお願いします。

佐藤　最初に旅券の手続きの前に外貨の割当を受けねばならないわけですが、外貨には一般外貨と優先外貨とそれから外貨を使はず費用は向うでもってくれる三つの場合があります。一番困難なのは一般外貨を使って行く場合で、この場合その人の身分によって一日何ドルという枠が決まっています。旅券には公用旅券と私用旅券がありますが、公用旅券だと在日カンボジイア大使館ですぐビザをくれますが、私用だと本国に照会が行き、それからビザが出るので随分日数がかかります。

松尾　私の場合公用で外務省からアジア協会を通じて海外旅行社等がやってくれましたから、本人が苦労することはありませんでした。ただ、神戸の検疫所に行って種痘とコレラの注射をしてその証明書をもらった位です。その他に銀行で外貨を受け取る時にサインをした位でしょう。

浜田　私の場合は一部国立、一部公立、一部私立で二手に分かれました。ある人はオフイシャルで、ある人は私用で大変その点複雑になりました。

松尾　所によって違うと思いますが、私の場合は大使館で官吏扱いにしてくれましたので、いろいろの問題の起きた場合頼みますと必ずやってくれました。また他の国に調査旅行する場合、いつでも大使館の方がビザを取ってくれるので非常に便利な点がありました。

佐藤　外貨の割当をもらうためには随分苦労しました。初めてで様子がわかりませんでしたから……。幸い一回で通ったのですが。審議官がこれは外貨の割当を与へる価値があるか、どうかを判断するのです。本学の準備委員会で

作製した趣意書、つまり、調査の概要、目的等を書いたプリントを用意し、県知事や更に関係筋の権威者（並河、木原両博士、京大農学部長、西京大農学部長等）の推薦書の写しをそえて、個別的に審議官の理解を深めることに努めたわけです。非常に苦労したのですがその代り一回でパスしました。特に科学技術庁の審議官およびその補佐官が好意をもって説明されたおかげと聞いております。

野中　そこで、これがわれわれの失敗というのもおかしいのですが、少し準備の期日が延びたのは結局、その金をつまなければ外貨の申請をしてはいけないものと思い込んでいたからです。それで、ある程度資金の目途がついてから申請したのでした。しかし、これは積まなくてもよかったわけです。だからこれをやる場合には、大体の調査旅行費の目途さえつけば申請は出来るというわけです。

野中　次に傷害保険ですが、皆さま無事お帰りで保険の必要が無かったことになったのですがこれはどういうものですかね。気休めのようですが、乏しい調査旅行費の中で五万とか六万とか云う金を、絶対に出す必要があるかどうか、或は調査費が足りない時はこれを削除してもよいものか、そう云う点のお見込みについて、この四カ国の場合のことで願います。

松尾　ヴエトナムの場合は、準戦時国になっておりまして、障害保険の額も一般より五〇％高いのです。それだけ矢張り危険性もあり、かけて行った方がいいだろうと云うことでそうしたのですが、サイゴンのような都会ですとその必要はないようです。然し、街を離れるに従って危険性が無いとは云えません。追剝や強盗に襲われた記事を時々見ましたから、かけて行ってよかったなーと云う気もしました。かって同じコロンボ・プランの友人が、今度また国境近くに行くが、途中の海岸道路は大変危険な所があるので、若し自動車事故があったら此の保険証を預けて置くから、宜しく処置頼むーと云われた時はちょっとドキツとしました。

浜田　タイ国は交通事故が多いんですが、交通事故だけだったら旅行傷害保険でいいのでしょう。それなら一〇〇万円に対して三二五〇円でいいわけです。（註、旅行傷害保険は、自ら運転する場合はこの他に加算額があり、それも自動車、三輪自動車、オートバイに依りその危険率の見積りが異なり、三輪自動車が最高額）

二、出発より入国まで

野中　出発から現地到着までの乗物関係について、また、到着してからの税関の問題について話して下さい。

浜田　私共団員は別々に行きました。初めの二人は船で、次の私ども二人も船の予定でしたが急に変更になり、タイ・エア・ウエーズで行きました。十六時間でした。台北と香港で二時間の休憩で夕刻には「ドムアン」飛行場に着きました。後で機は少々古いと聞かされましたが。

松尾　日航は世界的にサービスが良く安全だと云う評判で、アメリカ人なんかにもわざわざ日航機に乗る人もいる位です。最近それに負けないようにエール・フランスもサイゴン、マニラ経由には日本人のスチュワデスを乗せています。勿論フランスのスチュワデスも乗っていますが、二組乗っていますからサービスも非常によくなったような気がします。各国とも矢張り競争でサービスに勤めております。飛行機はサービスの問題ともう一つは良い飛行機に乗ることが大切ではないですかね。

高山　私達は船で行ったのですが飯野海運の宮島丸という五〇〇〇トン位の船です。これは貨物船で乗客は三人でした。本当は定員二人の所に三人一緒に乗せてもらったのですが、サービスも行き届きよかったですね。特に我々の場合荷物が沢山で、その上げおろしなんかも大変な経費なのですが全部無料サービスでやってもらいました。

野中　行きは飛行機、帰りは船がいいように一般に云われていますね。船酔なんかはどうですか。

高山　私も初めての経験で玄海灘を出る時に少しやられました。

佐藤　私は船には割合なれているのですが、帰りにはすっかり身体が疲れて香港までは殆んど食事が入りませんでした。責任を果した安堵感と疲労が一ぺんに出て……船酔は体のコンディションにもよります。香港までは四日位だったとおもいます。プノンペン、香港間を往復する辰久丸という浅野海運の小さい船でした。七〇〇トンの……。しかし、船長以下非常によい人達でした。勿論船客は私達二人だけで船長室にとめていただいていました。香港で外国の貨物船（乗客私共で四人）に乗りかえました。

野中　帰りはね、フランス製のヨーロッパ通いの大きな船、例えば、ラ・マルセイユ級の二万トン級位の大きな船……これに乗ると非常にいいですね。

松尾　そうですね、あちらで任事が忙がしかったり疲れ

た方は船で養生したり、仕事の整理も出来て、大船ですと船酔もなく、ハイクラス級でも飛行機より遙かに経済的でよいでしょうね。

野中　それから次は税関の問題を……。

松尾　羽田では植物検査係から種物の検査と証明書をもらい、税関では所持品中の外国品の申請をします。それからサイゴンへ着きまして手荷物を受け取るのですが、公用の場合は割合簡単です。飛行機で行った場合は制限外の大きな荷物は別送しますから、向うへ着けば二週間位して通知が来ます。私の場合は大使館に通知が来ておりました。それは両政府と関係のある荷物ですから大使館の方で、関税その他受け取りの手続きを全部やってくれまして助かりました。そう云う事でない場合は、例えば私用の場合は、大使館に頼んでそう云うものを取扱っている慣れた商社の方がありますから、その方を煩わしてやっていただくのが一番スムースに行くのではないかと思います。

佐藤　松尾さんは公用で向うの国の為に行かれたのですからね。私達はカンボジイアに入るのにクイのバンコックを通って行かなければならなかった。特に私達は荷物が多いものですから、早めに大使館に一覧表を送っておくのが良かったのですが、それが遅れたものでバンコックに入港する直前にこれがとどいたのです。身の廻り品などはパーソナル・エフエクトとして何梱、調査道具として何梱……この程度の簡単な方がいいようです。われわれの場合はパーソナル・エフエクトとしてその内容がシャツ何枚、ズボン下何枚とか、その他一つ一つ品目が書いてあり、ごたごたしていたのです。日本大使館の理事官が見て、こんなに沢山……と云われたのですが、量にしたら少ないんです。なるべく早く日本大使館に書類を送っておき、このような調査の場合は公用に準じて免税の手続きをしてもらうことが大切だと思います。

浜田　私共も飛行機から下りました時に向うの税関の人が非常に親切にしてくれまして、ほとんどフリー・パスでした。ただ船で運んだジープとかトラックに金が掛っているんですね。しかも、なかなか手続きが面倒でその方面の係の人がきて何度か向うの係の人に掛合い、金もかかり大分苦労した様です。

野中　現金の持参の方法ですが、これは皆さん違うと思うのですが浜田さんの場合はどうでしたか。

浜田　私の場合は、トラベラース・チエックでアメリカン・エクスプレスから発行されたものを持って行きました。そして一部現金のポンドを持って行きました。向うで

なるべく早く仕事を始めたいので、すぐバンコックでバーツに替えました。バーツならば大体安定していましてインドシナの旅行に好都合でした。両替には初め少し心配しましたが、しかし両替屋はあちこちにありますので銀行ばかりに頼らなくても大変便利にできています。それからまた、その他の国に行きますと……カンボジイアのリエールとか、ラオスのキップとか、或は南ヴエトナムのピヤストルとか、それぞれにポンドから、或は、アメリカのドルから逐次少しづつ替えて旅を続けました。

松尾　香港やバンコックなどはマネー・チエンジヤーがあるんですから一番いいんですけれど、サイゴンはないんです。その点すぐ両替が出来ずに不便です。バンコックでは銀行で替えるより両替屋の方が率が良いそうです。

野中　これから度々往復するようになれば、もう金ばかりでなく、いろいろな品物例えば写真機などホンコンで買うと非常に安いと云うことになりますね。

野中　ところで在外公館のわれわれ調査員に対する態度といいますか待遇といいますか、好意の程度についてお聞かせ願いたい。

松尾　公用の場合は役人としての取扱いを受けますし、外務省の出先機関として仕事の上では特に親切にしてくれました。在外公館の方もそれぞれ忙がしいので、出来るだけ自分でやりましたが、よく電話で連絡をとって呉れました。また、われわれの仲間で誰れかが週に二、三回顔を見せて居ました。日本を発つ前に出来ればその在外公館へ日程、目的、経路等を詳細に連絡してお願いしておくことが大切です。その上に自分の写真を同封してお願いしておくことも都合のよい場合があります。到着しましたら第一に挨拶しておくべきでしよう。われわれは度々大使公邸に招待されて居り、天皇誕生日等の祝日には在留邦人と共に祝賀会に招かれて大体自由なおつき合いが出来ていたと思います。

佐藤　私は大使が日本に帰っておられる際、大使のご長男から個人的に大使に紹介してもらい、お会いしていろいろお願いしたりしました。大使館の人々に私達のことを大使直々の言葉で、十分便宜を計ってやるようにと云っておられたそうです。非常によかったですね。親身になってやっていただきました。帰りなんかも香港の総領事館の方へカンボジイアの吉岡大使から紹介状をもらって来ましたので非常に良かったようです。

松尾　日本からの送金が遅れまして、お金が無くなって困って借りる場合等、好意的に誰かが貸してくれますか

ら、そういう点一番困る問題なんかも厚かましくお願い出来るようになっていました。それで一応はご挨拶しておくのがいいのだと思います。

三、携行品について

野中　更に、旅具とか服装とか携帯の衛生薬品とか云ったものは、皆さんの経験でどう云う風にしておられましたか。この四国とも同じ熱帯の風土で大体共通だと思うんですが。

浜田　私共は隊が大きかったのでジープ三台、トラック二台も持って行きました。梱が大き過ぎたと云う向もありましたが……。ジープを現地で借ることが出来ましても、なかなか高価なものになります。またタクシーを借りると云うこともできますが、費用の点その他自由にならないと思います。佐藤さん等は車を持って行かれたのは非常に有効だったと思います。

私共は道中、身の廻りにトランクとショルダー・バッグを一個宛持って行きましたが、非常に役に立ちました。殊にショルダー・バッグにはカメラとかノートを入れて歩き、撮影に調査に非常に役に立ちました。彼の地は秋でも冬でも温度が高いですから旅行中、物忘れし易いですが、ともかくショルダー・バッグに大切な物を何も彼もしまって行きました。その他田舎へ行きました時には双眼鏡を持って行くことも必要でした。また磁石、地図、懐中電燈等は未知の地方に行く時の案内役になります。もっとも、行った先の役所で大変世話になりまして事故なしに済みましたが……。

その他服装の問題でありますが、特にユニホームを着る必要もないですけど、団員用にギャバジンの強い、袖の長いのとか、短かいのとかを二着用意し、長く居る人は三着用意しました。シャツとかパンツとかワイシャツとか云ったものも数着づつ持って行きました。外に出ると大変に汗をかいてシャツ類はすぐ、じくじくになります。それで宿に着いたら何よりさきにそれ等の物を洗濯するようにしました。

長く滞在する時はその地の洗濯屋に頼めますから楽ですが、でないと自分で洗わなければならない場合が多いんです。また役所へ出ます時はあまり見苦しい風ではいけないと云うので背広に着代えてまいりました。はき物は短靴で用が足りました。

佐藤　私達の場合は、なかなかそう立派な服装は出来ず

に大体背広だけは一着づつ持って行ったのですが、後は県の警察から作業服を借りましてこれを調査用の服とし、私はもっぱら半ズボンをはいていました。向うに招待された時や向うの大使館に招待された時には在留邦人の方に礼服を借りたんですけれど、二人とも体が大きいのでなかなか体に合わず困りました。余裕があれば一応持って行けば助かると思います。しかし着ることは私達の場合三ケ月のうち二回しかありませんでした。下着は矢張り半ダース持って行きました。

携帯の薬品に関しては戦時中ニューギニヤの近くの極めて未開発の孤島に居たもんですから一つの信念を持っております。衛生薬品と関係は無さそうですが、一番恐れておったのは盲腸炎です。別に悪くなかったのですが盲腸だけは手術しておこうと思いまして医者に相談しました所、簡単だと言うものですから手術しておきましたので、その点、大変安心しておりました。その他マラリヤに対しては日常の節制で健康であればかかってもそう恐ろしいものでないと云う自信を持っていました。一応服薬とか、傷薬、その他の物を持って行ったのですが、大低の旅行者は沢山持ち過ぎて帰りには大体向うの方にあげてこられるようです。内地に比べてむしろ現地は病気が少ないと思うんです。

悪疫瘴癘の地だと云われていますが　キニーネなんか飲み過ぎたりすると、かえって胃腸を害したり肝臓をこわしたりします。

そのほか現地の食べもの主義で行くとビタミン類はそう多くは必要でないと思います。それから意外であったのは私の全然用いていなかった睡眠剤を神戸医大の先生から奨められて持って行ったのですが之が役立ったことです。特に運転をやる場合は疲れ過ぎてかえって眠れない。翌日は更に疲れ、なお眠れないので非常に困ります。睡眠剤は或る程度必要じゃないかと思います。

野中　睡眠剤に代るウイスキーとか酒は楽しみながら睡眠出来るんで……良いようにも思われますね。それで浜田さん、松尾さんは帰ってこられてから非常に腕が上って……驚ろいていますが、睡眠剤の代りに使用されたというわけですか。

浜田　そうじゃないんですょ……、喉が乾いた時は生水は飲めないんですから、よくコカコーラや彼の地の飲料を飲みました。割合安い罐入りのデンマーク製ビールだとか、現地のビールだとかを休息の時に見つけては時々飲みました。大したビール党になった訳ではないのですが、やむなくいけるようになりました。

佐藤　われわれの場合、アルコールが入ると酩酊運転で危険でもあり違反にもなりますからね……。

四、現地生活の問題

1．金銭出納と言語

野中　準備万端はそれ位にしていよいよ向うでの所謂現地の生活に入るんですが、先ず金の使い方ですが、特に注意しておかねばならないことを高山さん……。

高山　そうですね、私は割に貨幣価値に慣れるのは早かったと思うのですが、金銭の出納はがっちりやっておいた方が後の報告なんかの場合非常に都合がいいですね。領収書なんかも、たいがいもらえる所は無理をしてでももらっておいた方がいいんじゃないですか、少々めんどうですがね。私共の場合人数も二人だけですし、毎日日記をつける時にメモして比較的正確なものを出して行きました。そうすることに依って残金もはっきりしますから。

松尾　その点私も同感で日計をつけていました。これこれに使ったと書いておきますと、後で調べた際にその時の市価とか、その時どう云う果物が出ていたとかと云うことが後でわかりまして、日誌の代用みたいに面白い。これはためになると思いました。

野中　物価調査の一つの資料になりますね。それから現地における言葉の問題ですが、自分で現地語をあやつられるのはこれに越したことはないんですが、われわれ通訳を使う場合その他の経験をお話し願ったらと思います。

浜田　日本で間に合わせに習った私のフランス語は片言ながら役に立ちました。しかし現地人との交渉はどうしても向うの言葉を必要な最少限度習って行くことが大切で、もし出来れば非常に好都合です。中国語もかなり普及しています。田舎へ行くともう通訳もそういいのがおりませんし、通訳を頼んでも英語かフランス語を通じてやると云うのですから、英語フランス語がその土地に従ってどうしても必要となってくる。私共は必要に応じて一部ラオス語、カンボジイア語を習ったのですが、これとて不充分なものでしたから困まりました。物を集めるのに――これは何と云いますか（ニー・タバンニ・チュ・アライ）、これは何と云う村ですか（ニー・タバンニ・チュアライ）、と云うのを向うの言葉で聞いてそれを記録して行くというやり方をしました。現地語の必要さを痛感しました。

佐藤　私達現地語で調査に必要な事を向うの人に書いて

もらってそれを現地民に見せたりしてやった事がありました。現地では字の読めないものは案外少ない。我々は結局今浜田さんが云われた様に外国語は不得手でして、特に我々の外国語と云うのは目から入った言葉でして、それはその国の文化とか学術の理解の上には非常に役立つでしょうが、現地で実際に役立てるのには、どうしても耳から入った外国語でないと、いけないと云う事をつくづく感じました。

野中　通訳はどうでしたか。満足する様な通訳をこの四国で得られますか。

高山　ジュレパン君と云う巡査がいましたが、彼は戦時中日本軍に使われていて日本語を話すようになったというのです。そしてその後も相当勉強はしています。彼は日常の普通のことでしたら十分通じるんですが、我々の経済調査なんかやる場合、込み入ったことになるとなかなか通じませんね。そう云う点から云ったらカンボジイアに関する限り、直接日本語から現地語の通訳であまり期待出来るような人はいないんじゃないですか。

佐藤　奥地では華僑だと全部日本の漢字を並べて通じますね。

松尾　軍隊関係で行っておられてそのままあちらの婦人と結婚され現地語の上手な人がおります。その方が現地採用で社員になっておられる。そう云う方が暇な時、例えば日曜日なんかにお願いすれば、ある程度の謝礼で渝合に簡便に習えます。私もそんな方法で便宜を計ってもらったことがあります。

佐藤　台湾の人がいましてその人達は現地語もうまいですね。気持は全く日本人と変らない人がいます。随分お世話になりました。

野中　この地方はタイ語、ヴエトナム語、カンボジイア語、ラオス語とあるのですが、華僑の勢力と云うのが非常に強いので共通語としては中国語ですね。それと長年の習慣でフランス語ですね。この二つはマスターする方がいいですね……。

2　衣食住について

野中　次は衣食住の衣ですが、先程もちょっと服装の問題が出ましたが、それにつけ加えて何か。先刻は暑い所だから下着の類の話が出たのですが、まあ松尾さん等長くおられて半分日本代表と云う形だから、礼服がどうとか、通常服がどうとか云ったような点で何かお話がありましたら。

松尾　矢張り礼服は時々着ました。向うの方から招待さ

れるようなことがありますから。その時は白のダブル、勿論、上下共です。ネクタイと靴は黒です。普通の時は別ですが、大臣級の方に会うとか、初めて挨拶に行くとか、飛行場に迎えに出るとか云うようなはっきりした公開の席ではそう云う礼装を整え国際的な体面を維持せねばならないのです。話は別ですがヴエトナムの礼装は男は上が黒の絹製のガウンみたいなもの、白絹製のズボンをはき黒い帽子をかぶるのですが、大統領に招待された時などはそれで行くのがよいそうですけれども、日本人、外人はさっき言った白のダブルで臨んでも結構です。招待状に正装の必要がない時は平服と記してありますから、その際は一般の白の背広に黒ネクタイ位で結構です。

野中　長滞留の人はそうでしょうね。それから調査旅行に行く場合にはどうです……。

浜田　背広でね……白でもいいし、色物でもいい、大部気楽にさしてもらったんです。

松尾　初めて出張した場合にそこの省長―日本でいえば県知事ですが―そう云う方に招待されることがありますから、大体トランクに一式簡単なものを詰めて行った方がいいと云われております。そう無理しなくても向うは分っておりますから、ただ、国際人としての体面を汚さない程度の所をきちんとして行った方がいいのではないかと思います。

野中　カンボジイアの調査では大使館のレセプションの時、借衣をして行ったそうですね……。

佐藤　二度借りて行きました。二人共身体が大きいでしょう、うまく身体に合わずにチンチクリンでしたが……。

野中　そう云った旅行でも一応の礼装が要るのだから、そう云うことも心懸けておかないといけないですね。矢張り外国へ出ると長く滞在すれば、殊にこちらの方がやや先進国だから余りみっともないことのないように心得るべきだと思います。

次に住居と云いますか宿と云いますか……その点でお気付きの点を一つお話し願いたいのですが。都会ではホテルで泊られたのだろうし、地方では時によっては野宿もされたようにも聞くし、或は小さい粗末なホテルに泊られたと思うのですが。そこで、今後注意しなくてはならない点について。

浜田　私共は最初野宿することを考えて、テントを用意したり蚊帳を持って行ったり、いろいろなことをしましたがインドシナ到る処に中国人の宿がありまして、とうとう持って行った蚊帳もテントも全く二、三の人以外は利用し

なかったような実情でした。少々宿料が高く、バンコックは特に物価が高いんでしょうが二食付一〇〇バーツ（二七〇〇円）から一二〇バーツ（三二四〇円）位、プノンペンでは宿料だけで一日八〇リエール（八〇〇円）から一〇〇リエール（一〇〇〇円）位、ラオスのベンチャンあたりでも一〇〇キップ（一〇〇〇円）前後で、相当宿料がかさばり宿にじっとして居るのはあまりにも不経済ですから、出来るだけ次の所へ行くのを急ぐように飛行機を利用したわけでした。洋式の宿が中国人の経営で原地人の宿屋と云うと泊る機会が無かったような次第です。

野中　佐藤さんどうですか現地人の宿屋は……。

佐藤　シエムレアップでは大きなホテルに泊らず私達は二流に泊りました。新しく出来たものでこれが現地人のホテルでした。現地人のホテルは非常にサービスが悪いんですね。それは悪意ではないのです、気が利かないのですね。その点ではやっぱり華僑が一番ではないでしょうか。

高山　それとコンポントムでヴエトナム人経営の宿に泊りました。

佐藤　あそこはヴエトナム人らしいが……これはカンボジイアで受けた一番不愉快なことの一つでした。それでこはたった一晩だけ、それも室が無いというので私一人が室で高山さんは三輪車のなかで寝み、次の晩は森の小路に自動車を止めてそこで寝ました。

高山　それから感じのよかったのはバツタンバンです。

佐藤　同じヴエトナム人の宿でもバツタンバンの宿はカンボジイアで受けた最もいい印象の一つでした。主人一家の大変な好遇に感激しました。

浜田　カンボジイア人でなかったのですか……。

佐藤　カンボジイア人の宿はバツタンバンには一軒もないのです。いわゆる第三次産業にはカンボジイア人は適さないのではないですか……。

高山　われわれの場合は自動車の中にどこでも泊まれるように設備してもらったのですから、山奥に行った時など非常に良かったですね。

佐藤　宿に泊るよりも、藪の小道に自動三輪車を乗り入れ、南十字星でも仰ぎながら寝る方が静かでした。ただ物を盗まれないかとそれが心配でしたが、屋根の上に全部ほうり上げて、車のなかに蚊帳を吊りシユラーフを敷いてシヤツ一枚で寝るんです、車内は昼間の日射でなかなか暑いんですが……。

野中　次は食物の関係を、どうぞ高山さん。

高山　私は初めて南方の暑い所に行ったのですが、その

実随分不安もありました。しかし、ほんとうにもうその心配は無駄だったという位向うのものが口に合いました。向うの人の食べているのは、主食は大低白米ですし、それから副食としても塩干魚或は淡水魚ですね。それから野菜をカレーで煮た様なもの、中国料理やヴエトナム料理と大して変りないようなものです。それでもう食物に関しては誰も心配する必要はないと思います。

野中　食物の傾向としてはこれら四国は大体みな同じですか……。

松尾　細い点ではいろいろの特長を持っている面も見られますが、一般的には共通的な所があって南支那系と云うのですか、東洋民族に合った風味です。

佐藤　広東料理ですね、大体が。北京ではなくて台湾なんかと同じではないんですか……。

松尾　台湾に似ています。ただ違う所は南ヴエトナムは生の野菜をよく食べます。台湾人は普通、生のものを食べません。必ずいためるか煮ます。スープなんかも皆そうですけれど野菜では、からいものや、変な匂いのもの、まあ香辛料ですね。ドクダミやクサガメのような変な匂いのする草やチドメグサ――ああ云うものが多く出ますが、皆んなそれぞれを焼いた肉類と一諸に米の粉にタピオカを少し入れて薄くのばして一枚一枚ゆがいて乾しあげたポリエチレンの様な直径二〇糎位のうすものに巻き込み特殊な醤油につけて食べます。その点がちょっと違い、初めての人には手が出ないものです。

野中　ラオスがどうも少し違うような気がするのですがどうでしょうか。

浜田　それを今、お話しょうかと思っていました。あすこで「オコワ」を毎朝食べさせられましてね。糯米のオコワ―それを手でちぎってね、にぎりずし位の大きさに…。ご飯入れがありましてね(竹で組んだ)、そこから手でつかんで王様も庶民も皆、手摑みで竹のオヒツ（ピツツカオ）から摑み出して、コワメシを切って食べるんですょ。塩味がついたようには思いませんでしたが。おかずにはからいものがありました。一番面白かったのは水牛の肉を乾かして細く三分角に切ったのがありました。これはコリコリとしてこれをさかなに一杯やったらいいだろうと思うんですがね。たけの子や焼ざかなど日本料理とラオスの料理がなんだか似ているのですよ。だんだん日本に近よって来ているからね。人の顔つきも、色もだんだん似て来て食物も似かよって来ますね。シエンカンの奥地でね、試験場長の家に七日お世話になったんですよ。まあ洋食も出してくれ

ますがね。ラオス料理が大変嬉しかったですよ。

佐藤　油こいものの嫌いな人はどうしてもむかないようですね。一般にこういった調査行や探検にはその土地の環境に適応することが大切ですね。暑さに弱らず粗食に耐え、二、三食ぬいても平気といった強靱な適応―これは訓練によっても或る程度出来るでしょうが、個人差というものがあります。適応の出来ない人は結局本人が苦しむことになります。

3　治安の状態

野中　次に治安関係はどうですか。さっきホテルの所で一寸触れましたが、一般の都会における治安或は農村における治安状態はどんなでしたか……。

佐藤　私達随分奥地に行った訳なんですけれど、その方面は危険だから用心した方がよいと言われると、余りいい気持がしません。所が、奥地に行く場合、われわれは用心して行くのですから、私はむしろ「そこは治安が悪い」とか何とか聞かずに行った方がいいんじゃないかと思うのです。猟銃なんか持って行くのも考えものですし、まして危険だから鉄砲を持っていく―というようなことは絶対いけない。鉄砲欲しさにかえってやられるんじゃないかと思います。貴重品なんかもなるべく持って行かないことですね。止むを得ず所持した場合は現地民の前でなるべく開かないことです。私は戦争に行っておった関係で、そう云う点は特に用心していました。随分と奥地でもちょっとした警備隊がおります。この人達は皆非常に親切そうでした。また、猛獣とか毒蛇なんかも用心して行くに越したことはないですけれど、向うからかかって来るようなことはまずまずないと思っていいのではないでしょうか。特に毒蛇なんか……。

内地を立つ時は百歩蛇なんかいると云うことを聞いていたけれども、私は毒蛇を一回も見ませんでした。蛇と名の付くやつも一匹しか見なかったのです。高山君が「毒蛇だ」というので、すぐ自動車を止めたがもう見つからなかった。

高山　ちょっと緑色がかった細い奴ですが、ほんとうは恐しいんでしょうね。自動車の前を通って行きましたけれども……。

野中　象の通った後は見られたけれども、猛獣類の襲撃などはあまり気にしないでもよいのですね。そうすると南米より余程治安とか環境は良いと云うことですね。

佐藤　南米やアフリカなんかも大概これと同じではない

のですか。私達も、現地人がこれが虎の糞だ―と云う糞の落ちている所も歩いていますし、野牛の通ったすぐ後も歩いていますけれども姿は見られません。

浜田　夜が危いんです。シムレアップでも昼はいいんですが……あのアンコールワットのお寺なんか、私は昼間そこを一人で廻わったんですけれどとても気持が悪いです。夜でしたら虎が出てきそうです。昼でも何だか薄暗いのですから……。昼旅行する方は大丈夫ですが夜は危いですよ。ジープで夜中蝙蝠部隊みたいにとばしたことが二晩程あったのですが、もう危くて……ヘッドライトの前へニョキッと出来たのを見て肝をつぶしたが、やっと安心したのはそれが水牛だったからです。野生の水牛だの虎が出て来るかもしれないと思っていたのですが、それは放し飼いの水牛だったのです。

佐藤　ヘッドライトなんかつけ、ジープーやって行ったら猛獣でも逃げて行きますよ。私達もキリロムで泊った時、後から怒られたんですけどね―そんな所に泊ったのは無謀だって―。初めは火を焚いておったのですが、それも面倒臭くなって寝てしまったのですが、後からあすこは虎が出て来るのに……と嚇されました。一度やっぱり奥地に入った時、夜十二時頃になり「今から帰ろう」と云ったら、「虎に喰われてもいいか」と云うのですね。結局、夜中に象を出してもらって象に乗って帰ったのですけれど……。

野中　野営された時にはヘッドライトをつけっぱなしですか。

佐藤　いやいや、そんな事したらバッテリーがへってしまいます。目の覚めている間は警笛を時々鳴らしました。

浜田　火を焚いてね、猛獣を警戒したって云うことです。私共の一部の人が北ラオスのパクサンからタケツクと云う所へ廻る途中、橋が落ちてしまって難行して野営したんですね。夜通し焚火して誰れか起きて警戒したそうですよ。

佐藤　焚火もそううまく燃えないし第一、睡いでしょう。それで初めやっていてもすぐ消えてしまう。それに私達の場合二人ですからね。多勢だと交代も出来ますが……。

浜田　まあ、めったなことないですね。

佐藤　むしろ、もっと襲って来るような場面があると面白い位ですね。ターザンの映画みたいにね。いるのはいるらしいですがね……と云って無防備のところを襲って来られてはたまりませんが。インドシナは豊富な野獣で将来有望な狩猟地だそうです。

浜田　私共はね、一番注意しましたのは北ラオスには独

立ラオといって共産軍と連絡のある連中ですが、その方へ行って捕ったらちょっと帰れないと云うので、なるべくもう東部の奥地へは行かないと云った具合でした。その他の場合は兵隊さんたちは大変好意的で「ニッポン」と云うて指を上げて(親指突出して、両手を上げる格好)、「カンボジィア」とかね、大変親しくしたり、ラオスでも同様でした。日本に対して非常に好意的でした。

佐藤　日本人が行った場合には思想的なものはあまり恐れなくてよいではないですか。むしろ、所謂強盗と云う奴の方が恐ろしいですね。反政府の自由カンボジィア軍なんかも居るということでしたが……そう恐れなくてもいいのではないか、と云う気がするのです、われわれは中立ですからね……。

五、現地人との接触

野中　現地人と云いますかね—現地人にも種々あるのでしょうが、それらとの交渉ですね—現地人とどうしたら、うまく協調して、われわれの目的が達せられるか—と云うような見地からお話し願いたい。

松尾　これは矢張り「誠」「真心」と云う問題があるんです。結局相手を信頼させることですが、それには一番よいのは向うの現地の日本人で、彼等に良く知られている人に一回紹介してもらうことだと思います。私達は公用ですから、その点は割合信頼されて居ったんです。変な態度のない限り非常に親しまれます。まあ、例を申しますと、向うの仕事上の友達やその親友等の家を迷惑のかからぬ程度に訪問します。そこでは子供なんかにも「親しみ」を持って臨む—と云うような事は相手の感情を良くします。また国際的立場の人間ですから単独では変な裏道を通らない—そう云うような事もあります。土産物も無理してやる必要はないですが、日本から絵葉書等を送って戴いたとき、また富士山の絵葉書なんかが非常に好きですから—そう云うようなものをあげたり、日本の切手などをくれと云うことがありますから、矢張り「ギブ・アンド・テイーク」の形が一番親しみが湧き易い。写真などもよく撮ってやって、焼増ししてやること等—この方面からの親しみが結局円滑に行くのではないかと思うのです。お陰でヴエトナムの将棋を覚えました。

野中　宗教関係で非常にこり固っていて他宗の者、殊に外国人を避ける……と云うような傾向がありませんか。

松尾　そう云う点はヴエトナムにおいては無かったようですが　ヴエトナムは仏教が非常に普及して居ります。

然し大きく分ければ仏教とキリスト教、その他に道教、儒教とか云うものがありますが、現在栄えている仏教にはカオダイ教、ホーア・ハアオ教等種々ありますが、大体東洋的な礼拝ですから変にこじれるようなことはないようですね。現地のお互同志の間でキリスト教関係の人は若干プライドを持っていた感じがしました。

野中　それから、この四カ国をお歩きになってこれは妙な習慣があるな―、と云うようなお気付きの点はありませんか、想像もおよばないような妙なことをやっているとかの……。

佐藤　例えば、年齢なんかですね。私達によく協力してくれた日本語のかなり解る巡査が居りました。「幾つか」と聞いたら、とても若い年を云うのですね。所が計算すると日本軍に働いていた時は八才―九才位になるんです。おかしいじゃないか―と云うと、やっぱり当時は八才―九才だったと云うんですね。よく聞いて見ると向うは生れた時からの年令じゃなくて、役所にとどけた時が一才として数えたものです。そうすると十才になって役所にとどけたら―二十才になっても十才と云うわけです。これは意外なことでした。

こんなわけですから「生れてからいくつか」と聞かなければいかんのです。それから頭に触わることを非常に嫌う。これは本でちょっと読んでいたのですがピンと来なかった。しかも、坊さんの頭に触わったのは一番いけなかった。写真のポーズをとらしたときのことですが飛び上って驚いていました。「頭に触わる」と云うのは、「頭をもらう」と云うことになるのだそうですね。

浜田　私の一番印象深かったのは、田舎道で会っても私達に合掌してね「サバディ」とか「サウディ」とかいって両手を合せて少し右に廻すか、左に廻すか……普通は両手を真上に合せてそういう。これは仏前に行った時だけでなく日常の挨拶ですね。それから、われわれ向うの言葉でなるべくコブチャイ（ありがとう）と云っておりましたが、相手も大変親しそうに私達に「ニッポン」と云って近寄って来るのですがね、このように向うの習慣になるべく早く慣れると云うことが必要じゃないかと思いました。

野中　それでは例のタイ、カンボジイア、ラオス、ヴエトナム人について、その違いと云いますか、見分け方と云いますか……あなた方が見て―これはヴエトナム人か、タイ人かと云うことが長くみると分ると思んですが、それぞれの特色をお話し下さったら。

松尾　なかなか難かしいです。私の感じでは、ヴエトナ

ムは細い華奢な線が出てスマートな感じです。その反対にタイ人は非常にガッチリした下顎の張ったような感じと云うんですか、体格のいい……そう云う風に見かけられます。話し方や態度も活潑なように感じます。カンボジイアの人はその中間型ではないでしょうか。丸顔で田舎風な感じの正直そうな、すぐに親しめそうな感じがします。

野中　血液混合していませんか。この四カ国は地続きだし、相当行われていそうですが、そう云う点の観察はどんなでした。

高山　しかし、やっぱり感じとしては違っていたように思います。

佐藤　ヴエトナム人は華僑とよく似てますね、頬骨が張っていて……。

高山　そうです。中国人に似たような感じがしますね。

佐藤　カンボジイア人の女はすぐ分るんです。色が黒くボリユームがあります。

松尾　慣れた人ですと……あれは華僑だ、ヴエトナムだ、更に北越、南越だと細かく分けます。私なんか分らないのですけども、服装や頭の飾りなどは多少違います。顔だけでは無理な点があるですね。よく似たのが居ますからね。

野中　日本人に一番似てる、つまり日本民族に近いのは、この四カ国のうちでどの民族ですか。

松尾　ヴエトナム人に云わせますと彼らは日本人、支那人、朝鮮人とよく似ていると申していましたが、いろいろな見方や感じ方があるでしょう。私のそれではカンボジイア人が健康的で温和な日本人に似ているようです。

佐藤　そうです。カンボジイア人の男なんか、日本の美男子の部類に属するのが多いですね。なかなか苦み走った人がいます。

浜田　ヴエトナム人の中にはスマートで、このまま東京へつれて行っても、けっこう颯爽としていそうなものも居りますしね。ラオス人の中にも日本人かと思うようなのも居ります。アイデアでは……これはラオス、いやヴエトナム、いやこれはカンボジイア……とか云いますがね、個人についてはもう何とも云えませんね。われわれの団員の中の二人は「あんたは完全にタイ人だ」と云われてね—非常にガツカリしたのはI氏とS氏でしたがね。なるほどタイ人が日本人と近いんですね。

野中　外貌から見ると、この四カ国人とそう特にはっきり分かると云うほどではないのですな。

佐藤　男はですね……。

野中　女は服装が違うから……。

佐藤　それもあるし、顔色が違いますね。

浜田　まあ、南から北へ行く程、色が白くなってきますが、逆に南へ行く程黒いですね。

浜田　血統も違うのではないかな。カンボジイア人の母体となっている南インド人の血統が相当濃いと云うんですが……ニグロに近いですね。それに他の血統で、個人についても黒さの程度がいろいろ違いますし、顔立ちも非常に秀れたものからそうでないものまで……。

浜田　実にプリミティブなものも居りますね。山に住んでるモイ族とか、カー族とか云う体の小さい……非常に古い時代にインドシナに来たモンゴールと聞いているのですが。これなんかも幾通りもあるようですね。

佐藤　われわれの見たモイ族は二カ所で全く違っていました。一カ所は男も女も体がガッチリして美男美女でしたもう一カ所は顔が歪んだような者などでロクな顔立ちの者はいませんでした。

浜田　ラオスの奥にはね……四〇種類程違った小数民族がいまして十分研究されてない民族学の問題が沢山あるんでしょう。

野中　書物にはタイ、ビルマに一番複雑な人種が居ると云うように書いてあったが、カンボジイアやラオスは人種の数は少ない。

松尾　タイは純系は三〇％とか云いましたから、後の六〇％が華僑を主体とした混系……完全に違う者もおりますから。マラヤとかインドの人のような黒さでないですけれど、タイやカンボジイアやヴエトナムは顔色の点は似た所があります。タイはやや黒いと云う気がします。まあ、われわれの系統に似ています。つまり一般的な顔の特徴は四角とか円形とか瓜実とかに見えたと云えば叱られるでしょうが。

浜田　チエンマイへ行きそこねたんですがね、あすこは美人の産地でね、顔立ちもいいし色も白い……。

佐藤　働くのはカンボジイアの女が一番ではないでしょうか。ラオスはどうでしょう。

浜田　ラオスの女もよく働きますね。

野中　九〇年もフランスの植民地になっておったんだが、フランス人との混血人は見かけませんでしたか。

浜田　見ましたよ。ヴエトナム人が一番結婚し易い点でまた秀れている点でも一番であるからでしょうが、彼らとフランス人との混血人をボロベン高原とか、その他プノンペン等でよく見かけましたね。矢張り、東洋人とフランス

人の両方の特長を持った……。

浜田　ところがラオス人とフランス人とは結婚しませんね。

野中　そりゃ地理的にラオスと云うのはフランス植民地として不便で遠く離れているからでしょう。

松尾　そうです。首都がサイゴンでしたから……。

浜田　文化的にも大部離れていますものね。

野中　混血人はどこでも見られますか……。

浜田　ちょいちょい見かけますね。そして、その混血人がね中国人と或はヴエトナム人と結婚したので、いろいろなF_2、F_3に分離していますね。八〇—九〇年も統治したのだから三代近くなっている勘定です。

野中　勿論、父系がフランス人で母系が現地人でしょう。

松尾　そうです。ただ一度レストランで倚麗な白人の妻君らしいのを連れて居る現地人の紳士を見ました。

野中　現地における他の各国人やなんかの状況は如何ですか。

佐藤　非常に興味あるんですけれど、私達が会ったカンボジイア人は勿論ですが、ヴエトナム、華僑、タイ、インド、それから米国人、ドイツ人、フランス人、ソ連人にも逢いました。帰りは香港でポルトガル人それから勿論各地の日本人ですが。そうした人達……いろいろな特徴があってとても面白いもんですね。全部おしなべて云えることは、イデオロギーの違いとか、顔の色の違いとか云うことはあっても個人としては非常にいいように思います。接すれば接する程いいと思います。われわれ、どうして戦争しなくてはならないのかと云うことを考えさせられますね。ソ連人はおとなしくて—私は一つか二つ知っているロシア語で「ズドラスチエ」と云う、ただそれだけで後は何にも話して来ません。ホテルに泊っていても、他の人は皆ボーイに物をいいつけますが、ソ連人は自分でお湯をくみに行ったりして全く物をいいつけないようでした。ちょっと意外でした。

野中　一番威張っているのはアメリカ人ですか。

佐藤　いや、アメリカ人も附き合ってみると決して威張っているような感じはうけません。

浜田　あっさりしていますよ。アメリカ人に何べんも世話になったり交際しましたがあっさりしています。

佐藤　私達が逢った米人の中に宣教師がいました。キャンプローランへの悪路を奥さんと子供二人—一人はまだ乳呑児でしたが—大きなトレーラーを修理しながらモイ族の

教化に行くところでした。そのファイトと意気に大いに敬意を表しました。彼も私達の勇気を讃えてくれましたが。

松尾　アメリカ人は金持の坊ちゃん式です。最近自分達がヴエトナムなんかで嫌われているのではないかと云う気持ちがはっきりと分ってきたもんですから、いろいろ挽回策を講じています。エチケットも良くなりました。

浜田　アメリカ人は、フランス語の勉強を充分しないのか、言葉が通じなくて困ると云うて私共と話しが出るので互に親戚みたいにね、親くして頼りにするんですが……。

佐藤　フランス人はまた英語が出来ないでしょう。

浜田　そして悪口を互に言うんです。

佐藤　そうらしいですね。

松尾　フランスとアメリカと仲が悪いようですね。

野中　アメリカばかりでもない。イギリス人でも英語を使うやつは下等な奴―と云うのがフランス人の伝統的な考え方です。フランスの勢力と云うものはどう云う風に思われたです。まだ抜けきらないか、或はそろそろ変りつつあるかと云う……その感じと実際をどのように観察されましたか。

松尾　感じとしてはフランスは九〇余年も治めたんですが、もう駄目じゃないかと云う気がします。しかし、あれだけ言葉が普及してますからまだ裏にまわっての感情はそんなに戦後数年のようなことはなく、むしろ多少盛り返して来て、よい感じを持っている所があります。田舎は全然違います。言葉の問題は結局、まあ、話が自由に出来ると云うことは感情がハツキリ現われていることですから、その点違ってくるんじゃないかと思うんです。

野中　台湾でも民間人は日本に非常な親しみを持っていると云う話しですからね。フランスはそれよりも長いんだからその影響も大きい。

浜田　ただね、フランス人はあまり現地人を虐待したんですね。それで現地人は、よく私共にフランス語なまりで「バラン・アレー」と云うんです―「フランス人去れ！」と云う意味なんですね。それで時々ラオスではフランス人が少しでも威張ったら袋叩きにあうんです。で最近はおとなしいですね。

フランス人でも合掌して挨拶するものがあるようになっております。昔は主人だったが今はもう使用人になってしまったですよ。例えば、飛行機の操縦士でもね、おとなしく私達にも丁寧にしますしね。時代は変ってしまったですよ。

六、交通事情

野中　現在の交通事情についてお話し願えませんか。

浜田　私共は昨年九月から一月までの旅行中、再三、一日二―三〇〇キロとばしました。又向うの国の乗合自動車を利用することも出来ますが、矢張りジープが役に立ちました。主に向うの運転手に車を動かさせましたが、時には隊員も動かしました。都市では所謂「シクロー」或は「サムロー」と云う輪タクが流していますので非常に便利です。ただ初め値段がよくわかりませんので降りてから掛合ったら、ふっかけられて高くつきます。その他インドシナ各国内には定期の航空機が発着していますので私共はエア・ラオスとかエア・ヴエトナムとかを利用しました。またメコン河には小形発動機船とか丸木舟が用いられ川を渡るのには渡し船、フエリーボートが一時間おきとか、或はお客さまをみてトラックとかタクシーを乗せて対岸へ運んでくれます。陸上の交通は案外よく行っていますが、これはフランスが造りました植民地道路のお蔭です。これのある所は大変よろしいが小路に入りますと、もうどうにも歩くことが出来ないような状態でした。

佐藤　私は三輪自動車を自分で運転していたものですから、一度でも通ったことのあるカンボジイアの道路にはとても関心が深く、今でもよく覚えていますがいい道路は非常にいいし、かってよかった所が独立運動や何かで修理が出来ずにいる舗装道路は却って悪い。ボコボコ穴があいていましてタイヤが痛みますし振動がとても激しい。その他の道は浜田さんがおっしゃったように主幹道路からそれると道の悪いことは言葉に絶するものがありまして実に苦労しました。橋板が二枚しか渡してない所は三輪車で行きますと真中に一枚板を渡さなければならない。将来調査旅行に行く場合どうしてもジープが必要で、しかも自分達が運転して行くと云うことが大切だと思います……と云うのは道路のことからそれますけれど、例えばカンボジイアで運転手付の自動車を雇うと、ガソリンはこちら持ちで一日二千リエール（二万円）位とられるそうです。その上運転手はわれわれが自分で運転するのと違いまして思う所でとめてくれそうもありません。われわれは目的地から目的地まで除行し、思うままにどこでもとまれ非常にその点は良かったと思います。

しかし故障がおこると困ります。私達の場合、大きな故障が一回……これはプノンペンの修理工場で修理しまし

た。小さい故障が四回……といってもその内の二回はプノン族を訪ねての夜の山道と修理工場のない町で起ったもので今でこそ笑い話しですませますが、当時は泣きたくなるような気持で必死に修理したものです。

野中　この四カ国でね、タイからカンボジイアへ入った時に急に道路が良くなったとか或は、ラオスに行ったら悪くなったとか――と云うように、国を異にする毎に違いがありますか。それとも殆んど区別つきませんか。

佐藤　私はタイからカンボジイアだけですけれどタイは非常に道はいいんです。タイからカンボジイアに入った途端に悪くなりましたが主幹道路としてはこの辺りはカンボジイアでも悪い方でしょう。

浜田　そうですね。タイは非常に国力が充実していましてドシドシやっているのですよ。所がカンボジイア・ラオスはまだフランス時代を辛うじて維持しています。それでも一部外国の援助に依って殊にアメリカの金で沖縄人が来てドンドン道をなおしたり、新しくつけたりしています。ゆくゆくは良くなると思います。

野中　ヴエトナムは割に良いんですね。

松尾　ええ、割によい感じですね。主な大きな道路は、例えばカンボジイアに行く道でも良い方でしょう。

高山　それは立派なものでした。ところでカンボジイアからラオスに行く道はどうなんですか。

浜田　疎林ですね。平らな森の中を一直線に北へ道がついております。

佐藤　ラオス領ですか……。

浜田　ええ、そうです。

佐藤　カンボジイアではストン・トレンまでいい道がついていましたね割と……。

浜田　あれと大体同じようなものですね。一キロ毎に道しるべがついております。そしてラオスは最近アルファベットで地名を道しるべに書いています。カンボジイアではカンボジイア語でしたか。

佐藤　両方の字が書いてあります。数字も両方で書いてあります。あれはいいですね。道標は運転していて――いつも地名などの目安にもなりました。

野中　鉄道は未発達のようですが、あちらの汽車の状態はどうですか。

松尾　汽車はサイゴンから東海岸に沿って北ヴエトナムに行く本線や、ダラット行、ミトー行がありますが、ミトーまでは七一キロでよく乗りましたが、この線は普通大体二時間。そして客車が貨車を何輛も引いている場合は二時

間半乃至四十分かかるような具合で……速いとは思えなかつたんですが……一等賃金で日本の金にして一四〇円かかりますからそう高いとも思われません。三等客は貨車の空いている所にも乗っています。それに荷物、豚や家鴨等と一緒に乗っているので感じのよい三等ではないです。単線ですから途中で待ち合せします。鉄橋では汽車のために自動車は十分から三十分以上も待たされることがあります。話しは少しそれますが、鉄橋の遮断機で自動車の待たされる順序は軍用車と監査車がトップで、少し離れて官用車、更に離れて一般車の停車するようにヴェトナム語で書いた立札が立って居り陸軍に依り警備されています。

浜田　バンコックからアランヤプラテートという国境まで大体七―八時間、朝出て昼からの三時頃までかかります。あすこは薪を焚いて汽車が走ります。日本から送った汽車とフランスから来た汽車がありますがスピードは鈍です。国境をまた別の汽車で二キロ程乗って行き朝ポイペットをたってプノンペンに夕方着くのですが、これも各駅で長いこと待たされ、まあ駅で食事をとったり実にのんびりした旅でした。

野中　あれはゲージは広軌でしたか狭軌でしたか……。

浜田　広軌だったと思いますね。一等車に私も乗りましたが一等車は軍人か外国人で、いい汽車でしたが日本の二等車までは行かない。

佐藤　冷房装置づきじゃないんですか……。

浜田　そんな気のきいたものはなかったですね。三等から四等になると座席は板張りでした。

野中　食堂車などついていますか……。

浜田　食堂はありませんが軽食と飲料とは、車の一方に用意してありました。駅に止まる毎に買物もできます。

野中　屋根の上にも乗っていますね、あれの方が安いんですか……。

佐藤　カンボジイアでは屋根の上は乗っていますね。しかも走っている屋根の上に立って手を振っていました。

野中　暑いから屋根の上に乗っているのか、運賃が安いからですか……。

高山　運賃が安いんじゃないですか……。

野中　昔は満州等に中国移民を送るのに安くして貨車に乗せていましたよ。

佐藤　プノンペンとバッタンバン間には日本と同じようなディーゼル・カーが走っています。

野中　これらの国で度々政変があると云う話ですが各国とも新しい国で相当政情が不安の模様ですね。このことは

われわれの学術調査に対する影響について―お話し願えたら……。

浜田　タイ国の方はご存知のように軍部の方が非常に力が強いですが、陸軍・海軍・空軍それに警察軍がありまして、その間で実力を競つています。政党よりむしろ実力を持っている者ということになっていて……私達の研究もそういう人達の許可を得ませんと動きがとれません。日本の新聞にも随分政変が、クーデターのような状態になったと載って……私達の生命なども心配されたようなわけでしたが、向うではさいわい示威運動で飛行機或は戦車を動かす位で、昔のように弾丸をとばすこともなかったようです。当時私共は目立たないように隊を分けてバンコック周囲の民族文化の調査に行きました。

野中　ヴエトナムの南北の対立と云うのは……。

松尾　北の方へ行っていないので、ハツキリわかりませんがご承知のようにお互いに宣伝に努めており……南では木曜日には（金曜日に変ったこともありますが）若い職員が退庁一時間前に集まって座談会とも云うべきものをやりアンチ・コミュニスト的な気持をエキサイトするようなことをやっていました。また表面にはそれをハツキリ出さないでやっているところもありました。若い人がその会合をリードしていたようです。

浜田　ラオスの北ではフランス人排撃が強くなり、アメリカの評判は良くない。それで外国人は困まっていました。北部のパテト・ラオは北ヴエトナムと関連があるが共産系ではないようでした。

野中　国民感情はどうですか……。

浜田　ラオスとカンボジイアとは仲がよいですね。

佐藤　ヴエトナム人はカンボジイア人を悪く云うようですが、カンボジイア人は悪口を云わない。私の経験した範囲内ではカンボジイア人は他人の悪口を余り云わないのではないかと感じました。実にいい国民です。

松尾　フランス統治下ではサイゴンに首都があったので都会人と田舎人の観念が残っていて、ヴエトナム人はカンボジイヤ人を自分より下の人とみて悪口を云って馬鹿にしており、万一トラブルが起るとヴエトナムの方が高圧的でした。

第二部　インドシナ三国の産業

一、一般経済状態

1　都市と農村の比較

野中　産業について先づ一般的な問題から始めたいと思います。高山さん、都市と農村の比較ですね。日本などはもう都市も農村もない位に交通も良いし、国も狭いんですが、これらの地方は相当に都市と農村の違いと云いますか――はっきりした区別があると思うんですが。

高山　私も確かにそう思ったんですが、その都市と云うのが非常に少ないわけでして、その都市を一つの点とすると、点が一〇位あってその間を道路の線が結びつけている。それ以外の面は殆んど農村と云ってよいでしょう。それが日本の場合だってそうでしょうが、よりはっきりした型で見られるのじゃないかと云うような気が致しました。そして農村は勿論、村落を成して農民が住んでいます。散村と云うより殆んど集村じゃないかと思います。その都市の中では、一番真中に市場があって、その周辺が町をなしていると云うわけです。どんな少さな街村に行ってもそのプサール(市場)が中心になってその周辺に町が出来ていると云う状態で、市場を中心とした町が出来ています。大きな都市なんかに行きますと、大体外人の住んでいる所、そういう外人が住んでいるのは住宅街とか、病院とか、そういった所なんですが、その地域と、それから華僑或は印僑などの住んでいると云う商店街と、それから、その町の周辺に現住民の賃労働者の集落と、こういう三つのものが場所的にはっきり区別されて都市を形成していると云う型が見られるようでした。そして農村は大体集村ですが、その幾つかの中心に大きな寺院を一つ持っていると云うのが特徴のようですね。まあ大体そういう型で都市と農村ははっきり区別出来るようです。勿論、比較にはいろいろ比較の仕方がありますが、とにかく都市は高度な生活をやっている人々と賃労働者が住んでいるわけです。それも勿論、外人や華僑なんかの人達が高度の生活をしていて、そこに働く賃労働者というのがカンボジイア人で彼らは非常に低い生活をしているようです。しかしカンボジイア人でも官吏とか、或は警察官ですか、そう云うような人々はかなり高い生活のようですが、普通の人は大抵労働者であって低い生

活です。農村は勿論農業が主体で、村とお寺を中心としていろいろな行事をやっていますが、平均して生活程度は低いようですね。

松尾　ヴエトナムも、いま高山さんが話されたようなことでありますが、華僑が五軒に一軒の割合で入り込んでおりますから、これは田舎でもそうで、主として都会と農村との違いは農業と云う一本やりですから非常に生活の程度なんかも落ちて来ますし、跣足で歩くのが殆んどと云った状態で、例えば大サイゴン市（チョロン市を含む）は一七〇万の人口をもっているのに第二の都会はずっと落ちて一〇万の人口（カントー市）、次は五、六万、これらが大きな県庁の所在地です。その田舎に行きますと人家はばらばらですから、非常に較差が大きく現われています。それと生活程度がはっきり出てくるわけですね。服装その他の点でも首都とは、はっきり違っています。ですから現地人と親しもうと思えばやはりその所まで行かなくちゃ本当の現地人は分らないのです。

浜田　ラオスは一番遅れております。原始産業それは農業ですが。これが殆んど米単作でもう後は畜産。水牛と黄牛少し山羊を飼ったり、豚、にわとりを飼っていますがそれももう自家用、それですから大きな都市の付近では果樹がかなり良い収入になっている状態でした。それで農家は相当大きな農耕地を持っておりながら、殆んどが自給自足の状態で、日本から良い農具を入れるとか、或は手工業が発達するといいましてもまだ電力が発達しておりませんので目下発電所を日本が作ってあの国に工業を起して、大いに経済状態を良くしようということで、馬に手をつけているらしいですが、何しろ生活が楽なものですし、それから長い習慣で半日働いて午後はもう休みと云うような状況です。滑稽な話があります――それはアメリカの金で、いま琉球の人や沖縄人がラオスで道を造っておりますが、ブルトザーその他の大きな機具や道具を動かして朝から晩まで働いていると、ラオスの人は何の楽しみであんなに働かなくてはならないかと云うことと、どうしてあんなに体力が続くんだろうかと云う不思議に思い奇異の眼で、興味深げに見ているようでございました。タイ国なんかと違って大変その点ラオスの人はのんびりしたようなところがあり、従って経済状態もまだ非常によくない状態です。しかしぼつぼつ向上して来ていますので今後驚くほど良くなって来ると思います。

2　物資の流通状態

野中　次は物資の流通状態と物価の一般と云うような事についてですが……浜田さんは大分マーケットを朝早くお廻りのように聞いておるし、高山さんはいろいろな物価を調べられた様子ですから、それらの点をお話し願いたい。

浜田　私が先に話しましょう。奥地と首府や大きな都市の状態ではかなり違いますが、最近カンボジイアとかラオスでは例の南北に走っております植民地道路、あれが大変役に立ちトラックが盛んに品物を運んでおりました。私達のジープとすれちがう車が相当頻繁にありました。ラオスの奥地には華僑は少ないが、カンボジイアとか南ラオスになると華僑が多いが北の方は少ないのでトラックやメコン河上の舟が北方の生産物資を南へ運搬しているようであります。唯、商品としては、主として米と玉蜀黍であります。尤も、ラオス王国にはいろんな鉱物資源もあり、或は水産淡水魚等も未開発のままになっておりますが、この点私達十分調査する機会がありませんでしたので残念に思っております。

野中　外国商品が相当に入っていると思うんですが、日常物資としては、その外国商品のうち、日本品が多いか、ドイツ品が多いか、フランス品が多いか。見られた所どう云う模様ですか。

松尾　サイゴンの場合、やはりフランス製品の高級なものが入っているようです。一般の衣服類では殆んどと云ってよいほど日本の化学製品が入っています。そのルートはどう云うようなルートか知りませんが、正しい方のルートで入っているものと思います。華僑がこの方面の店を出しインド人が綿製品を多く取り扱っています。

その他日本のものとしては、玩具が沢山店に出ているが安い値段のものが露店、夜店を賑わしているようです。日本の高級品ではソニーのトランジスタ、キヤノンがぼっぽっ現われて来ている。矢張り数量から云えば、まだフランス製の写真機具が多いようですが、米国製のカメラや映写機も相当入っている。オートバイでは伊国製のが一番評判がよいようでした。

一般的に見ますと、フランスの高級なものが沢山入っております。化粧品、薬類、自転車のタイヤーなんかもそうです。それに次いでアメリカの高級機具ではないかと思うんです。例えばタイプライター、テープレコーダー、計算機等は米・仏・独の競争です。

生活品に対しての一般的なものは日本の品、中国の品、香港製と云うのですがそこで名前を変えて来るとも聞いております。それに似たものが沢山入っております。映画は

多くフランス物です。次いで米国のもの、日本ものが一年に何本か入って来るようです。何と云っても矢張り、まだまだ日常雑貨に至るまでフランスの商標が目につきます。

野中　中共の品物は見うけられませんか……。

松尾　ヴエトナムの場合は今、アンテイ・コムミニイズムの立場をとつているので、それがこたえているものですから、表面的には入っていないようです。然し、台湾からそう云う型のものが入って来ております。一九五七年の五月頃サイゴンで台湾製品だけの台華博覧会をやって展示即売をしておりました。当時はそのような品物が相当入って来ていましたが、資金の問題でＩＣＡ資金等―ああ云う外貨の獲得がうまく行かないで結局一番よく利用出来ているのはアメリカとフランスですからそう云う点で一般は抑えられているのではないかと云う気がしました。

野中　共産圏は、自分の所の消費物資を押えても外国に出すと云う傾向があるとよく云われております。それから中共の援助物資或は、ソ連の援助物資と云うものは普通の日常品の他にもいろいろなプラントとして入っておりはしないかと思う。そういうおみかけはありませんか。

松尾　入ってるはずなんですけれど細かい所は私にはよく分りません。陸が続いておりますし、香港との連絡も盛んですし、華僑が非常な勢力を持って商売をしており、日本品か中華品かわからない製品が香港を通して沢山入っていますから……。

浜田　日本の商品はバンコックでも、ヴイエンチアンでもかなり多くて、殊に繊維類は安くて長持ちするというので非常に評判が良ろしゆうございました。

その他電気器具とか日用品等のいろんなものが日本から来ていたのを見受けましたが、聞く所に依りますと、かなり商社の間でダンピングみたいな同志討をやっているようで大変残念に思いました。ドイツあたりは、その点大変よく打ち合せをして、ある取決めが出来たらもう決してそう云う仲間をうらぎるようなことはなく、高い値段でどんどんお得意を見つけて行くと云う具合にうまくやっているようでした。イタリーの商社もかなりよくやっているように聞きました。

野中　化学薬品等はドイツ製品が相当入っているんじゃないですか……。

浜田　フランス製品が多かったようですね。

高山　まだ相当そう云う点ではフランスが強く残っているわけですね。

松尾　ドイツは昨今相当外貨を持っておりますから、南

ヴエトナムへも働きかけて来ていますので、いろいろの面に出て来るのではないかと思います。

高山　それから私の感じたのは、直接カンボジイアでは知りませんでしたが、香港に来たら万年筆の立派なのを中共が出していますから、そう云う点で中共製品が段々伸びて来るのではないかと云う気がします。カンボジイアでも大体日本からの輸出品といえば、いま松尾さんが云われた綿織物とか人絹織物類が非常に多いわけで、その他セメントとか陶磁器と云うようなものも日本から相当出しているようです。

浜田　非常にこれはまずい事と思うんですがカンボジイアやラオスでは日本商社が物資を送る事が出来るが、店舗を開いて商売する事は出来ない。これはどう云う事なんですか。ほとんどパキスタンとかインドの商人か華僑、そう云った人の店ばかりなんですが……。

野中　それはね、或種の業種を外国人に禁じている法律があるんですね。例えばテレビとかラジオとかの組立業や販売業者は本国人でないといかんというように……。

高山　散髪屋もそうですね……。

野中　散髪屋もそうですか。それは一つは華僑対策の一つと思うんですね。それは華僑がみなやってしまうから、本国人が進出する余地が無くなってしまうんですね。本国人保護に基づいているんじゃないかと思うんです。どこの国でもそれはやっていましょう。

松尾　南ヴエトナムでも民族資本の育成がうまく行かないで、現在の経済攪乱、即ち、物資の騰貴や貨物の偏在が起るのは華僑のためにこれ等がディスターブされていると云う理由で、華僑を一番初めに締出して、その次は二番目に優勢な所を締出そうと云うのをやっているんです。

3　物価と生活水準

野中　物価について日本等と比較してお話し願いたい。

高山　ずっとインフレ傾向にあるとカンボジイアでは見られているようですね。それで物価の高いものといったら輸入したものが高いわけで、廉い物といったら自国で穫れた農産物、これはべらぼうに安い。貨幣換算、まあ一リエール一〇円としますと、白米が一キロ三―一〇リエールですから三〇円―一〇〇円位であるわけです。そう云うような主食、お米は非常に安い反面、薄いノートなんか日本では一〇円位のものが一冊一〇〇円、絵はがき一枚が四〇円―五〇円しますから製造製品は非常に高いんです。こういうように農産物は非常に廉いから向うの人がただ生きて行

くだけでは、結構やって行けると思われます。それも生活程度にも依りますが二、三人家族でも三〇リエール乃至二〇リエールあったら結構一日たべて行けると云う話しも聞きました。物価と関連して労賃ですが、労賃も日雇程度が二〇―三〇リエール、もっと田舎に行けば五リエールで一日雇えるというような状態です。

松尾　今お話しにありましたように農産物が非常に安いので、例えば白米一、八キロが一五円ないし三〇円位で安く、弗は一〇円ないし一一円ですから大差はないが、レモンジュースの小瓶が二〇円ですから農家等はやりにくい点が有るんじゃないですか。然し暖かいので住み易いんでしょし、消費する場合は食べもの類は安く買えるし、山野には食べられる生果が割合に多いので、食う事には余り困らないのではないかと思います。こじきは田舎へ行っても殆んどみられない。都会ではレストランを流し歩く芸人等の高等こじきの一種、また飲食店に来て食事中に競争で足をひっぱって靴みがきをやる。そう云うこともありますが、食うか食われるかと云うような切実な場面、即ち、生きんがための深刻性は見られない。

高山　もう一つその華僑とも関連しますが、華僑に経済力を奪われていますから、華僑の正月になると、とたんに物価がピーンとはね上って非常に困るという状態でして、又華僑の正月の場合は取引がとまってしまいますから、銀行も休まなければならないと云うように、全く華僑に経済の実権を握られている状態ですね。

浜田　ラオスではもう物価が高くなっています。それはアメリカがどっさりお金を持って来て、今までのあの国の総予算が小さかったのが急に膨張しかかったので、物は少ない―お金は来たと云うので贅沢はおぼえたですが、国民はお金を持っていない。持っているのは一部の人と云うんで、非常にアンバランスがひどくなって来ました。私達もあすこのホテルに泊り、別に食事に出ますと一日にどうしても三〇〇キップ（三、〇〇〇円）以上もかかります。

一般の人達は、チリ紙一枚もあの国で作れないような国ですから……何もかも高いものを買って暮す……と云うので暮しが楽でないように思いました。

野中　次に生活水準の方に段々入って来るんですが、その前に、国民所得の統計がこれらの国にないんです。タイだが一人一〇二ドルと、こう云うように出ていますが、私共は他の三国は五〇ドル以下とみてるんですが、その現地人の生活程度はどの位だと云う事をもう少しお話し願いたい。

松尾　朝は真の現地人はイモとか、カユを吸っている者が多い様ですね。イモと言いますとキャツサバの根の皮をむいて、沸かしたもの、それと普通のサツマイモです。田舎では家の周囲にバナナと共にそれ等を作っております。そう云う様なものを道辺に並べて売っておりますが、それを食べています。或は、少し銭のある人はフランス式の硬い長型のパンですが、それを買って食べてい、役人とか商売人等が、一寸煮たき等の面倒くさい時にそれらを食べています。或はソバ類の簡単なものを好んで食べます。普通ですと昼、夜はご飯でして、それにオカユも別に付けます。オカユと云っても色々混ぜたぞうすいの様なものを食べます。此のオカユ式のものを初めに食べます。熱帯産物のバナナとかパパイヤ等の果物が沢山売られていますので、その点食べる物については低い生計で間に合う利点があります。ですが先にも話しがありましたような、その割合に日用雑貨品が高いんで、そこに上流層と下流層との生活差が非常に大きくなって、そのアンバランスの所がはっきりみえて来ていると云うような気がします。

高山　先ほど申しましたように、労働者の賃金が大体農村では二〇リエールから三〇リエールです。それで日本人が一寸レストランで朝食をとるとすると五〇―六〇リエールですからそれに比べると三分の一ですね。それが一日の賃金ですから廉いわけです。

家族の生活も大人二人に小供一人で一日二〇リエールで過せる人という人もありますし、それから奥さんと小供三人の五人暮しで、一日四〇リエール位でやってゆけるという人もあります。大体そんなものですね。

野中　そう、日本に比べて四〇リエール、四〇〇円で月額一二、〇〇〇円、一二、〇〇〇円で矢張り日本でも五、六人は食べているのが普通じゃないですか。その貨幣価値が違うけれど、そう云う換算から行くとね……。

高山　一リエール一〇円として正規に換算してそうなりますね。しかし、実際の所は一リエールが四、五円のもんじゃないんですか。それでゆけば日本の半分か、三分の一というところがいいところでしょう。

野中　ヴエトナムのようにオカユを吸っていたら二〇リエールも要らない……。

松尾　労働者、主として農家は田植とか収穫期には忙がしいので賃金は高いようですけれど大体、日本の金に直しますと女二五〇円、男三〇〇円です。

一日の労働は必ず八時間労働になっています。以上の賃銀ですからそれに対して汁ソバ等は私達では一盃で満腹に

なるんですが、大体三五円ですから五〇円位で一回の朝飯がすませる。ですから一日に二〇〇円から三〇〇円位の範囲で一人でしたら十分出来るわけですね。その他にバナナとかパパイヤ等イモ類、あんなものを買っても大した金は要らない。労働者はハンド・ツー・マウスが割合にうまく行くんじゃないかと思われました。

高山　食生活は割に安くて行けそうですね……。

浜田　魚の種類は大変豊富でありまして、大きなのは長さ一メートル以上もあり、又形がアカエイのような海産魚でないかと思うものありました。それから肉類はおそらく水牛か黄牛の肉でしょう。その他豚、ニワトリ、アヒルも豊富に出廻っておりまして、副食物には事欠かない様にみえました。

織物類とか玩具だかもたまに出ておりましたが、かなりこの市場は国の経済を左右するもので、それを中心に人々の生活が動いているようにみうけられます。市場には朝七時頃が人出の一番盛んな時でありまして、九時十時になりますと段々人出が減ってしまいまして午後は寂しくなります。朝行きますと沢山の人が市場の傍らの屋台店で朝食をとっているのを見ましたが、あの人達は家で食事をする代りそう云う所で食事をします。又学校へ行く子供は学校の前あたりの店で食事をしているのを見ましたが、家庭で特に食事をすると云うことよりか外で食べる方が便利なのでしょう。

大体、市場の発達と云うものは大変おもしろいものだと思いました。市場の中心にはよく井戸がありました、この水源を中心として市がたち……それから段々発達して町が出来るんじゃないかと思いました。

4　華　僑

野中　これで一般の経済関係の話しは打切りにしたいんですが、これらの国々で重要な役割を占めている華僑について一つ触れていただきたいんです。華僑は大体タイが一番多いと云う事になっていて約三五〇万人、それからラオス・カンボジイア・南北ヴェトナムでこれは約九五万人合計四五〇万人ばかりの華僑がおるんですが、彼等が経済上非常な力を持っていると云うんです。殊に都市ではその人口割合は非常に大きくなっていると云うことです。華僑に対する見聞も一応見落してはいけないと思います。

高山　華僑は東南アジアには共通でしょうが、至る処に見られます。それは都市に住んでいますが、その他街村なんかの中央はみな華僑に占められていますし、どんなへん

びな田舎に行っても二、三戸商店でも出している所はきまって華僑です。カンボジイアで二〇万と云われていますが、この華僑の力は現在では絶対抜き難いものだと思います。彼等はフランスの植民以前から既にグランラックの漁業権を得たと云われているほど、非常に根強くそこに住みついていると云った感じがします。

松尾　南ヴエトナムにも華僑の町がありまして、この町はサイゴンに続いた市チョロンですが、人口七〇万の大半は華僑で、商売の華やかな町でサイゴンよりむしろ明るい、派手な町です。華僑は殆んど商売をやっております。戦前は精米業で儲けて居たようですが、主なる商売は勿論日用雑貨物、その他高級支那料理店から屋台店等を通じてやっている。田舎でも五軒に一軒の割合で雑貨商や飲食店をやっています。

華僑の勢力は非常に大きい。その他に宿屋兼用の赤線地区を持っているのも主に彼等のようです。店で面白いことは一軒の店で左側で果物や菓子を売って居るかと思えば、右側では金物や茶椀などを売っており、全然関連性のない品物を売っている店が目につきます。これは恐らく合同経営と思われます。

商売には非常にたけている。どこの人種もその点は一歩譲ったような形です。チョロン市ではお祭をやるにも華僑が主体となってやっています。仲秋の名月のお祭なんかも非常に派手にやっています。チョロン市の華僑のために彼等がヴエトナムの国籍に入り、自由に商売をするようにと云われた時に反対のデモをやった。その反対の理由はヴエトナムの国民になれば、兵隊関係にとられるから、それは反対だと云うことでした。そう云うように大きな力を持っておりまして、華僑の活躍はある意味では、国の上のコブの様なものもあったようです。

野中　華僑の国籍はあれは現地出生主義じゃないんですか。二世はその国の国籍を持っと云う……。

佐藤　そうじゃ無さそうです。カンボジイア国籍を持っ華僑もそうでない華僑もいます。華僑はどんな山村に行っても店を開いております。この店は物を売ると同時にまたその地方の僅かの産物を集めているんですね。例えばカンボジイアウルシ、松ヤニ、カポックと云ったものは、こう云う出先の華僑が集め、それが集り集って相当な量になると思います。私は戦争中から南方各地の華僑と接する機会が多かったんです。戦争中は「ニッポンジョウトウ」とか何とかおべっかを使っていたんですが、平和な時になって果してどんな態度をするか非常な興味を持って行ったので

すが、驚いたことには昔と少しも変らない、昔以上に親しいような気が致しました。華僑は島国根性や半島根性ではない大国の民だとつくづく感心しました。われわれに非常な援助を与えてくれる人が沢山ありました。こう云う人達は大体親しい日本人、その他の友人に紹介をしていただいた人ですが、そうでなくても全く行きづりの華僑もおりました。華僑は大体国と国との連がりよりも人と人との連がりを重んじるような気がします。知人の紹介だと非常に鄭重に扱ってくれます。紅中国、つまり中共のことですが、若い者は非常に魅力を感じている様で紅中国、紅中国と云っていますが、中年以上の人は賢いと云うか、ずるいと云うか……中立と云うよりはっきりした態度をとらないと云った感じが致しました。

浜田　私は佐藤さんの紹介でカンボジイアでは大変中国人にお世話になりましたので誠に感謝しております。ラオスに入りましても華僑の宿屋で非常に良くしてくれましたし、親身になってやるのは矢張り中国人、殊に、南方の広東、潮洲とか海南島とかの出身者で日本人に良く似ておりますし、非常に能率も高い人達がラオスなりカンボジイアの発達に非常に大きな貢献をしているんじゃないかと云うように感じました。華僑の血液がラオスなりカンボジイアの中、或はタイなんかに入って、一部民族の構成が変って来るような気が致します。タイ国では昔ってシャムの時代に山田長政がアユチヤで大いに活躍していました頃、日本人と中国人との数が大体同じだったのにその後、日本人はいなくなってしまって、反対に中国人がどんどん増えたと云うようなわけです。われわれに何か教えられる処があるように思います。彼等中国人は私達に大変親しみを持っていてなんだか兄弟みたいな感じが致しました。これは佐藤さんのお話しと同じような事を経験したわけです。

野中　華僑は現地人に対しては社会的にも文化的にも一段上のようなつもりでおりませんか……。

佐藤　そうでしょう。しかしそれを顔や口に出さない所が賢いですね。外へ出したらもっと反感を買うでしょうから。カンボジイア人は陰では悪口を言いながら矢張り、華僑には一目置いております。

浜田　ラオスでは華僑と結婚するのは苗族ですね。ラオス人と華僑とは結婚しないですね。どうもラオス人は見下げられているような気がしますね。苗族はなかなか優秀でご存知のようにずい分近世まで漢民族と戦って戦いぬいた民族ですから……唯、数が少くない……、それから生活が山の上で暮しているんですから。華僑と苗族は大いに相提

携出来るようです。

野中　華僑間で今の紅華僑と台湾華僑間との葛藤と云うようなものはお見聞になりませんか……。

佐藤　私は全然そんな事は感じませんでした。

浜田　向うの人は大変割りきって南の方へ来て発展するためにはどうしても台湾籍とか昔の中華民国の人でないと動けない、と云うようなわけで中共からでは査証が得られないんです。内部は知りませんが外部はみな蔣政権を支持しているんですね。

松尾　タイでも台湾関係が表面に出ていたようでした。

野中　表面はね……。

浜田　内は分りませんけれどね。

松尾　省という関係は福建省とか広東省とか例えば、高知県とか兵庫県とかの関係に似たような所があり、県同志が集まっているような感じがしました。

佐藤　それは大いに感じますね。広東の学校、福建の学校、潮洲華僑、広東華僑、福建華僑、海南華僑とちゃんと分れていますからね。職業も大体決っているとのことです。農業をやるのは潮洲だと云っていましたから。

野中　そこらは中共領域ですからね、中共がカンボジアに八〇億元の経済援助をするとか云うのはこの華僑の向背を中共のためにすると云うんでやっているんで、外交上では南ベエトナムとかタイ等は中共を承認せんのだから旅券査証は台湾政府発行に依る次第でしょう。

二、農業地の条件

野中　次は農業関係に入りたいと思いますが、農業立地条件と申しましても社会的、経済的条件もありますが、ここでは主として自然的条件、つまり気候関係、土壌関係……だとか云った問題からお話し願います。

松尾　インドシナ三国、それにタイもそうですが、あの近く一帯は乾季、雨季にはっきり分れていて、日本の様な春夏秋冬の四季がなくて、乾季雨季の両様な型で云えると思うんですが、乾季が十一月から翌年の四月頃迄で、大体雨季が五月から十月の間ですから、その間に一般の農耕をやる。水田地帯なんかはそう云う型になりますから、雨季になればスコールが来まして、雨季の間は割合に涼しく、日本で考えているような真夏はむしろ雨の降る前の三、四五月、ヴエトナムでは四月が一番暑いと云うようなことになります。この地方で一番良いのは暴風がないことで、激しい風が吹かないのが一つの大きな特徴じゃないかと思い

ます。そして地震もありませんが、強い風が吹きませんからサトウキビや、大きく伸びる作物が良く育ち、雨季の間にどんどん伸びて行く。それから雨季の間は風の吹く方向も一定している。例えば六、七、八、九、十月の間は西南の風が吹く他は反対に近い風が吹く。激しい風でなくて、そよ風ですから割合に涼しく感じます。

雨量の点におきましては、大体雨が降りだして六月頃と降り終りの一月前の九月頃がそれぞれ最高になるというように雨量の山が二つありますが、それがはっきりしております。その点傘を持って歩かなくてもいい場合も少くありません。

野中　カンボジイアも大体それに近い……。

松尾　あのあたりは全部そうですね。西に行く程、早めに来るんじゃないかと云われています。西から雨が来ると云われ、タイあたりは一ケ月か或は半ケ月早いんじゃないかと云われておりますが、まあその点は浜田さんにお話し願いましょう……。

野中　ラオスはちょっと違うんですね。

松尾　山手に行きますと、その点非常に違って来て、雨季と云うのが乱れますね。

浜田　ラオスではモンスーンの特徴が多少違って、夏の西南風モンスーンのように冬は東支那海から吹きつける東北風モンスーンですか、あれが湿気を持って来ますので、乾季と云われる十一月から四月頃までに時々驟雨があり、南の方はからっからで水田が割れておりますのにラオスの水田はやや湿っております。これは大変違うよう現象ですね。

佐藤　松尾さん、雨季に入る時期は年によって違うのですか。例えば五月からと云う事ですが、年によっては七月頃から入ると云ったような……。インドではよくこのため大飢饉があるとのことですが……安定していることは農業上大変大切なことなんです。

松尾　私の行った時は（一九五七年）一カ月くらい（処では一カ月半くらい）は遅れましたんですけれど、矢張り雨の降り始めるのはその頃からのようですが、ただ、ぽっぽっで切れますね。然し、地方によっては、全然降っていないこともあり、本当に雨季とは雨の日が続く状態に入った時期を言うようです。

ですから農家の立場から雨季が遅れたと云うことは普通に続いて雨が降って来ないことです。平年は五月頃になると雨がぽっぽっ降って来ます。その雨が降る前には雲が深くなりまして、むし暑くなるんです。それでその時非常に

暑くなると云うわけです。

佐藤　驟雨性ですか……。

松尾　ええ、矢張りスコールの形ですね。スコール前の時の温度なんかは三〇度内外になりまして暑いんです。六—九月の雨の時は平均が二八度位です。十—十二月頃の涼しい時は矢張り毛布を着ないと朝、晩は冷える様です。夜は毛布を掛けないで寝られても、朝は冷えて来ますからステテコと半袖のシャツだけで、毛布を着ないと足がしびれたりする。特にビタミン欠乏なんかの時はそう云う事がはっきり出て来ます。その時の温度が二〇度以下に下がる、平均二六度位の所です。日中は三〇度近くの事もありますが朝昼の温度の差に矢張り冬と夏の感じがしますね。

佐藤　一年中の温度較差は若干あるようですけれど、滞在中毎日数回温度を計っていましたが、一日の温度較差は非常に少ないようです。プノンペンでは特に夜も昼も暑い、一日の較差は一度位です。奥地へ入ると夜はずうっと涼しいように感じました。

松尾　海岸ですとまた多少違ってきますね。

佐藤　プノンペンなんかは海岸から大分遠いですが……それでも較差は少なかったですね。

野中　台風はあすこは全然それておるんですね。

松尾　そうですね。サイゴンでは前に、並木が数本倒れる程度のものがあったそうですけをど、昨今ほとんど襲われていませんので、まあ無いと云っていいですね。

野中　台風の恩恵だけは受けておる。雨が降って……。

高山　私は乾季だけしか知らないんですが、雨季の一日の状態はどうなんですか……。

松尾　大体、毎日降っているんですけれど、短時間で、朝から降り続けると云うことはありませんね。サーッと降って止み、一時間以上も続くことは殆んどないようですね。

高山　降らない時は晴れているんですか……。

松尾　晴れてますね。雨が降って来る時は変な黒い雲が現われましてね、間もなく一陣の風と共にザアーとやって来るんです。そんな時はすごいんです。遠い所のを見ていると雨足が滝みたいに見えますね。大きな雨雲が二、三カ所あちこちに見えますから、あの辺に行ったら降るんだと云うことが直ぐわかります。これは山の無い国の話です。

野中　浜田さんの調査旅行は、乾季と雨季の両方に渉ったのですか……。

浜田　いま、おっしゃったように私共の経験では雨季の

九月から十一月まで時々スコールがやって来ますね。遠くの方に黒い雲からサーと幕がたれるように雨がふって来まして、それが次第に近よって来て、いままで遠方にあった雨雲がまもなく自分の上に来て拇指大の雨が降って来るんですよ。うっかりしていてジープをスリップさして、引き上げる間に全身ぬれてしまったり、土地の人の援助を求めに行ったりしてひどいめに会ったんです。一日に一回か二回か降ってくるんです。一時間か二時間ね……後はカラッとしちゃうんです。

松尾　広い所でしょう、だから、そう云う光景が良く見られる……。

それから雷もひどいのが鳴ります。空中で何かが爆破したようなショックを受けることもあります。日本の雷は山手などでは大きくても下に落ちたような感じがするんでしょう。それが眺野ですと空中爆破したようで、夜などは壮観と形容されるほどです。

野中　立地条件のうち、平地の場合と垂直的な、つまり高い所のもの、例えばキリロム（カンボジイア）だとか、ダラット（南ヴエトナム）とか云ったような所の農業の可能性に触れていただきたいんですが……。

松尾　ダラットは大体一〇〇〇メートル位の高地なんですが、五〇〇メートル位からもう相当温度が違いまして、ポツポツ松林になるんです。その松は三本の葉の松で、ダラット付近は殆んど松です。はっきりしていますね。五〇〇メートル位になるといままで無かった種の樹がパッと出て来ます。針葉樹の地帯に入って来ます。ダラットはサイゴンから三〇〇キロ位離れております。一〇〇〇メートル近くの海抜差がありますからそこでは見事な、硬くしまったキャベツ、トマト、高級野菜、それから、花卉類ができ、フランス時代は花を多く作っていたようです。花のいいのがあります。ダラットは避暑地になっていまして、立派な公園があるんですが、湖の側にはコスモスのきれいなのが咲いていますし、松は枝ぶりがいいし、非常に感じの良い所で、桜があり、染井、吉野の桜が街から公園に出る道にずっと植えてあって、あれですと四〇年位になっているんではないかと思います。相当大きな、直径三〇センチメートル以上のがありました。それが、ずうと並木をなしていました。二月末頃に花が咲くそうですが、一度にきれいに咲かないのが日本と異っているとか……。

大体以上のように立派な野菜が出来る所です。いわばサイゴン市民の野菜宝庫です。夕方トラックへ積み込んで、また汽車で運べば朝早く市場に出せますから、出荷の点で

も恵まれております。

野中　他にもそう云う高原地が在りますか。ダラット以外で……、そして可耕面積については……。

松尾　なお、途中至るところにお茶なんかを作っている。非常にいい茶の適地があります。

面積も何十万ヘクタール位か判りませんが……相当の広さで山また、山のこの辺は茶樹が出来そうです。その他に少し下に胡椒、コーヒー更に密柑などもいいようでした。ただ、人があまり入り込んでいないから、ダラット付近の先程話しましたような事情でこの辺はもっと目を付けて開発できる所でしょう。

野中　カンボジイアのキリロムの高原はアジア協会で調査されて、その開発に十五億円日本出資が決定したのですが、その金は他の農業開発計画に使用となるようです。

佐藤　キリロム高原開発は、金を掛けたら出来るでしょうけどね。道路が悪くて、ものを作っても下に運べないでしようし、土質は余りよくないようですが、いい部分もありますしね。乾季にも川床から水が湧き出ておりますし、非常にいい所です。グラットにはおよばないでしようが。ここは標高七〇〇―八〇〇メートルです。カンボジイアにはヴエトナムのように高冷地農業と云うものがないんですね。一〇〇〇メートルのボゴールで蔬菜園芸をやっているようですが、これはほんのわずかな面積ですから問題にならないでしよう。

野中　ラオスの場合では……。

浜田　大体あのメコンの河畔の砂地でわずか五〇メートルか一〇〇メートル巾の傾斜地を利用して蔬菜園芸をやっています。メコン河から離れて奥地へ行きますと丹波の山と同じくらいの高さの、ボロバン高原（一〇〇〇―一二〇〇メートル）シエンカン高原（一二〇〇メートル）など低い山の起伏でありまして、その高原の上、殊にボルメン辺りですと可耕地が三万ヘクタールかそこいらありまして、向うの政府では、日本の農家五〇〇〇家族を迎えたいと申し出ていました。一家族当り五、六ヘクタールかそこらの可耕地とそれから耕作には向きませんが放牧するのに適した所が数万ヘクタールあります。気温は大体一〇〇メートル毎に〇・五度位下りますから、十二月の高原は気温が昼は二五度位、夜は一八度―二〇度で実に気持ちが良い。グラット辺りと同じように年中何か花が咲いている。野菜も良く出来るし、地力も良ろしいようですし、仲間の一人があすこで大農場を開いてみたいなど云っておりました。日本政府もまだなかなか踏み出しがきかないようですし、シエ

ンカン高原もあすこは三万―四万ヘクタールどころじゃありません。恐らく数万ヘクタールもあるでしょうが、何しろ人が少くて土地がただ広いばかりで、交通機関がまだ発達していませんから、折角のあの気候のいい所が手をつけられずそのまま放置されているようです。

野中　日本人が実際移民でもして、農企業をやると云うのは矢張り高原地帯を選んでだ、と思うんですがね。これならばそう暑くはなし、道路だとか開拓だとかの外部の経済開発の問題にかかるわけですが……。

浜田　もっともボルベン高原は五〇キロ程パツクセから立派な道が開けております。あすこでジープで約一時間の行程です。いま高原の町パクソンまでパツクセから乗合自動車が一日二、三回通っております。

ボルベンに関する限り……大変いいんですが、ただ、生産物をプノンペンに送るか、サイゴンに送るか或はバンコツクに送るか、何処へ送りますか……。生産物をどんどん輸出する方法や販売面に問題がありますね。

野中　まあ高級なものを作って飛行機を利用することですね。

浜田　あすこは花卉、お茶、コーヒー、コショウ、柑橘類等を作っていますね。

野中　各戸でヘリコプターでも持って、それ位の企業でないとね。日本人が東南アジアへ行ってやるんじゃ……。

松尾　そうです。やがては未開発の宝庫森林のあるヴエトナムは、平地と違って一般人との軋轢も摩擦も大きくないと云う問題と、それからこの森林地帯は政府が殆んど持っていると云う問題等で、後で入って行くのに非常に都合のよい所のような気がしました。

高山　高原と云うのは、たいらなのですか……。

浜田　高原の上は大体平らです。つまりテーブル、ランドです。

佐藤　キリロムも上の方に行けばかなり起伏のゆるやかなところがあります。

松尾　ええ、牧草地帯ですよ。いい所ですね……。

浜田　そう、大方は草原になっていますが一部疎林になっています。シエンカンも禾本草とかスゲとかヨモギの類が多い草原です。

松尾　あれだけいい草が生えておったら土地もいいにきまっています。

浜田　カルカヤでも二―三メートル位で草の中に人が入ったら見えないですよ。

野中　それじゃ、大牧場を一つ……。

高山　われわれの考える高原とは、ちょっと違うわけですね。山の上と云ったら、土地は痩せていると考えるんですが……。

松尾　それを通り越すと森林地帯に入りますね。それの前のいい土地にゴムのプランテーションをやっている所が見られ、大体良い所ばかり取って栽培しているように見えました。

佐藤　ゴムのプランテーションにしては割合高い所にあるんですね。

松尾　低い所が多いですけれど……割合奥地の良い所にも作っていますね。

そんなに高くはないんですがね。その途中での話です。

佐藤　土質については佐伯さん（兵庫農大・教授）が私達が集めて来た約一四〇点の土について分析されまして、今、デイスカスしておられます。これが完成すると、カンボジイアについては兎に角世界一の土質調査になると先生は確信されています。詳しくは―それに報告されると思うんですが、今まで聞いた所では水田なんかの肥料成分が非常に少い、例えば日本のそれの五分の一から十分の一と云うんですから。これから考えますと反收が日本の普通水田の五分の一の約一〇〇リットル位と云うのも当然の事と云う風に考えられます。

野中　日本の肥料工業の排け口に非常にいいわけですね

高山　売れるかどうか問題ですけれどね。

野中　この自然的立地条件はそれ位にしまして、一寸ここでお聞きしたいのは、南ヴエトナムで農地改革をやった年の改正農地改革法は非常に逆コースの農地改革だと云う評判があるんですが、これについて松尾さん何か……。

松尾　私はその方の専門ではないんですからはっきり分りませんが、確かに失敗だと私達も見ておりましたが……、華僑が相当入っておりましたから、その点でどの程度うまく利用したかと云う問題があるのと、それから土地を沢山持って日本の様な感じの所もありまして、大地主が居るんですが直接作っていないとか。耕地に働く小作農の方を自由農家にしたのはいいでしょうけれど経済面でも成り立たない面が沢山ありますので大体失敗の姿です。プランテーション式のものが矢張り向うでは成功するんじゃないかと思います。私の見方はそう云う見方したのですが……。

野中　もう一つ聞きたいのは、ヴエトナムの内国植民の事なのです。あの事業について少しお話しを承りたいんです。

松尾　南ヴエトナムは北ヴエトナムからの避難民レーフユジーを一九五四年頃から入れているのですが、一九五五年の七月には支那人を除いて、ヴエトナム人八一万余人を入植しております。それ等を含めて現在は九〇万を越しているのではないかと云われます。それで政府が持っている良い土地なら割合楽ですが、そう云う広大な土地は山手又は僻地の方にあるんですが、そう云う所に定住した移民はI・C・O資金でアメリカの援助を受け、地味のよい所は良くやっているのです。例えば西方の海に面したラチジヤ市に行くまでにカイサンと云う町があるが、運河の非常に発達している所で、この地区には一五万人の入植を米国でやっています。資金は勿論、技術も共に援助し米国式農法が入り込んでいますが、一九五八年に完成の予定です。

サイゴンから少し南の方に行った所で砿野がありますが、そこは非常に礫土の強い所で、草だけしか生えていない。草も萬草のようなもので水も非常にきれいですけれど魚も泳いでいない、住めない。非常にきれいな水で一メートル下の底がよく見えているが、そう云う所では何も出来ない。そう云う所に入り込んだものは非常に迷惑していた。そう云う所では大きな施設で排水を充分やらなくてはいけないので非常に費用がかかるんです。

初めからいい所に行った人間は非常にうまく行っていますが、最近うまく行っている所ばかりとは云えないのでしよう。失敗しておる所があるそうです。然し大した事業と思います。これ等の職種は大体農家七五%、大工等の職人一五%、漁夫一〇%の割の様です。不思議な事にはカトリック教が八五%、仏教その他が一五%だそうです。

是等の定住の中心地は南ヴエトナムは一二七カ所で、その南部地方の高地帯が一〇カ所、中部ヴエトナムが五五カ所、計一九〇二カ所で現在までに約六〇〇億円を投資しているそうです。

高山　それは集団で入植したんですか……。

松尾　ええ集団です。何百戸と云う集団で、家の型も全部決まっています。土地も大体どの位と云う事がちゃんと決めてあります。

最近カマオと云う所では南ヴエトナムの南の端で海岸寄りの所で非常に土地の悪い所なんですけれど、そう云う所で失敗するといかん、と云うのでアメリカの人が一生懸命やっているんですが、農業事情が日本的でないから手こずっていたようですが、昨年頃か二世の人でしっかりした山城技師(畜産主任)が立派な設計をたてて活躍しています。

高山　主として米を作っているんですか……。

松尾　米が主体です。その人の設計は堆肥小屋を庭の真中に作ってその前に自分の住居を構え、裏の方には農具、肥料小屋とか牛小屋とか豚小屋等を設計した色図を示して規画通りに作った者にいろいろの恩典を与え促進を計っていました。なお、細い点では家の周囲には、前の方にはココヤシを何本。裏の方にはバナナおよびパパイヤ何本植えるとか、ゴミは集めて根元に埋めるとか――きちんと設計してこれと同じものを一応作らしてそれが出来れば今度はその家の前に軌道台車等の通る道を敷いてやるとか、既にあるキャナルには船が一隻づつ与えられて盛に利用しているわけです。皆きちんと初め割当られた通りにやらない人は除外される。結局その部落の繁栄のためにお互にやっているそうです。

佐藤　いま話しにあったようにココヤシだったら何本植えると云うのは各家に何本と云うように割当ててあるんですか……。

松尾　計画の絵に書いてある通りに家の前に一定の間隔できちんと植えておけばよいのです。

佐藤　面白いですね、このやり方は……。

松尾　それは確か家の前に一〇本位と思いました。その横にパパイヤ何本、裏にはバナナ何本と云うように倚麗な色刷したビラを配布して、このようにやるのだ―と云うやり方でした。頭を使わずに見た通りやればよいようでした。

野中　アメリカ式だね。

松尾　一応そこまでもって行かなければ、と云うのでそんな風にやっていました。

野中　プランテーションと云うけれど、これは農地改革法に依ると最高面積一二〇ヘクタールまでと云うことになっている。

佐藤　一二〇ヘクタールですか。大分単位が小さいですね。

野中　そのくせ五ヘクタール以下の小土地所有者が七二%、北へ行くと九〇%ある。

松尾　北ヴェトナムは小さいのが多いんですね。

野中　逆コースと云ったのは結局第一次農地改革法は小作料が一五%（つまり地代ですかね）と云う事であったやっが一九五五年の改革法は、今の避難民もそうだろうけれど、新しく開墾する土地に対しては、第一年小作料は無料と第二年目は五〇%、第三年目七五%と云うようなんだな。

松尾　それほどとられたら今までの考えではやって行けないでしょうね。

三、農業技術及び経営

1　稲　作

野中　次に皆さまのご専門の技術関係および農業経営に入って行きましょう。

一番主な農業は勿論水稲作ですが、この南ヴェトナムとカンボジアとラオスの三国で大体三二二万ヘクタールある。日本が三一〇万ヘクタールですから日本内地の水田面積位はあるわけですが、産額は別としまして、タイの方が六一七万ヘクタール、こう云うんでこれが水田の面積と云うことになっていますが、稲作の問題についてその技術面およびその他経営面についてお話し願いたいのです。

松尾　南ヴェトナムは主として前コーチンチャイナーと云っていた所が稲作の中心地帯になっていまして、二一〇万町歩もありますから非常に面積が大きいので、南ヴェトナム全体は二六〇万町歩位で、その内の八二%の水田面積を全部南部地方が占めているようです。それに人口が一一〇〇万乃至一五〇〇万位、日本の割合で考えれば、米はいくらでも余っているような形ですが、反収が日本の四分の一または三分の一以下と云われておるんです。その値段も三分の一乃至四分の一ですから非常に経営がやり難いのじゃないか。日本の農家が平均どれ位栽培しているか。仮りに一ヘクタールならその面積に対してはヴェトナムの人は少なくとも日本の十倍以上持たなくては現在の状態ではやって行けない。しかもこれは米だけの問題であって、他のものをやらないのでもっと苦しいんじゃないかと思います。金が自分のふところにどんどん入る場合は別ですが、現状は食べる面においては困らないが、水田に資本と労力を投じても米価が安いので増産はかえって損になると考えている。結局稲作の技術としましてもそう云う様な状態で収量を上げても今の処儲にならないので、非常に粗放な農法つまり、金をかけない無肥栽培で、その上、余分に働かないでも、収量が上がる、楽な暮しが出来る、と云うような感じで栽培しているわけです。従って稲自体も日本のようにふさふさした穂なみのものでありません。印度型ですから草の出来なんかはいいんですが、そう云う点であまり感心しない。矢張り集約的な栽培をするには輸出面とか政策面で、農家の励みが出るような米価にもって行かなくてはならないんじゃないか……。

佐藤　カンボジヤの稲作はまえにも述べたのですが、これ以上奨励しなくてもいいような感じがします。こう云う

ことを言うのは東南アジアの稲作指導をしなければならないと思っている日本人としては好ましくないかもしれませんが……。米の全生産額をこのままとし、反收を上げて今の面積を縮め、稲を植えないで、空いた水田に他の作物を植えると云うことも考えられますが、雨季には全く排水の出来ない水田になってしまうので稲に代る作物がない。そうなれば反收を上げても意味がない、だから今のままほって置く……。

品種改良の目的も増收ではなく、品質や倒伏しないもの等を目標とする。食べる分には困まらない国で、輸出出来なければ余るほどあるらしいですから、他の輸出作物と云いますか経済作物といいますか、これ等をもっともっと植えたらいいんじゃないかと思います。今の所、ゴムを除いては何もありません。

松尾　その傾向はヴエトナムにもはっきり出ており、特に都会付近の水田地帯は姿を変えて幅一・三メートル位、深さ約一・三メートル位の溝を掘って乾季にはそこに水が残るようにし、溝と溝の間の幅は大体五・五メートル間位です。そのような高い所を作り、一ヘクタール約五万円位かけてそこに果樹類例えば、バナナ。パイナップル。パパイヤとか初め簡単に出来るものから植えて行って次第に高級な果物に置き換え立派な果樹園に換えて行く傾向が非常に強く現われていました。

大体、三年目で負債が返せるとかいうことで、現在のところ一番良い事業だと云っていました。

佐藤　さっき反收が非常に少いのは肥料成分が少いから――と云ったんですが、それじゃ肥料をやったらいいとも考えられますが、肥料をやっても今の稲の品種では反って倒伏を増してしまいます。又病虫害なんかも出て来るでしょうし、稲はやはり今のままにしておいた方がいいんじゃないでしょうか。稲作技術の専門家は憤慨されるかも知れませんが……。

松尾　あすこは水を多く使い過ぎるんです――と云うのは水の排け口が無いんですね。

要するに、空から来た雨水を田に貯めて、植えているんですから排け口が無い。雨季のメコン河が満潮になる時はカンボジイアのプノンペン辺りまで逆流して来るそうですから。その時にはその大きな河水が灌漑口にずっと入って来ます。濁流ですごい勢いで入って来ることが判ります。日本のように灌漑と排水の両方を考えている所は殆んどない。水があれば稲が出来ると云う気持ちで水を入れているだけなんです。だから深水の形で稲は伸びるけれど腰が弱

く、その上、水の中にも肥料が相当ありますから伸びはいいんです。また温度が高いし、そう云うような状態になりますから收穫の時はどの品種を見ても倒れているのです。それで向うの技術家はその倒伏を非常に心配していまして何とか強い品種を作りたいと云っていましたが、品種よりまず栽培の方法が間違っていると云ったのです。

そう云うような状態ですから、この面から、例えば土木事業の関係などももっと進めなければならない点が相当あるのです。

また、逆に乾燥季が早く来る時などは平野が広いので、今後は米国あたりの灌水用モーターによる力で急援などを行い、非常に乱暴な水の使い方を是正すべきでしょう。

佐藤　雨季にはあの水は排けようがないでしょうね。

松尾　圃場全面に溢れているような現状では大変ですね。例えば海の方まで出すのに大きな二間幅位のキャナルを真直ぐに付けているのがあります。そこをモーターの付いた船も行っていますけれど……。オランダ式の満潮に水の入ってこない方法ーそのような工夫が必要です。現状は大体流しっぱなしで一方的ですね。

野中　地図や調査書で見ると南ヴエトナムの海岸寄りの方は、相当人工水路が沢山あるように書いてあるんですがね。あれは運用されていないんですか……。

松尾　小さい方は水が入って来るだけで更に激しい雨量と満潮の時は逆に都合の悪い所もあります。勿論大きな方は交通運搬の大切な役をしており、船の上で暮している民が相当います。

なお、雨のことですが、それは暖かくなり出してあの遠いヒマラヤ山脈の雪が溶け出し、丁度五、六月頃から雨が降って来ましてこれらが重なるんです。そして水量が非常に大きくなる。一面、湖みたいな形になり、そこで浮稲地帯の問題が出て来るのですね。

浜田さんの御覧になった浮稲をお話し願います。

浜田　カンボジイアでは浮稲を四月頃最初の雨のあとに直き播すると五月頃には茎が生長して来ます。その頃逐次、田は水が増えて九月から十月になるとプノンペンの附近は約三メートルに達します。その頃には稲の茎は三ー四メートルの長さになり、水の上に稲の茎と葉が四、五〇センチメートルも出ているんです。舟でその中へ行きまして稲の茎を根ごと引抜こうとしました。しかし抜けるのは稗か草ですね。稲はなかなか抜けないですよ。あれは浮稲じゃない、根がちゃんと着いていて浮いているんじゃないんですよ。ゆらゆらと動くのですが、カンボジイアのバッタンバ

ンでは、ある浮稲は七メートルの長さに達したと云われます。浮稲は一九〇〇年頃から急に栽培が普及して、プノンペンの南方から南ヴエトナムの方へ及んでいったらしいですね。それで五〇数年間に全体で三〇万ヘクタールに達している有様です。そのうち、カンボジイアは多い年で一二万ヘクタール位、年によっては六万ヘクタール位に減ることもあるようです。

カンボジイアの人々には丸木舟で村から村へと交通しているんです。

松尾　乾燥季には何処が浮稲地帯であったかわからない位ですよ。普通の原野へ行っているようなものです。

松尾　ヴエトナムの乾燥季の浮稲地帯はトウモロコシか煙草が多く作られているようです。雨季は一面の水で、ただ、車道が出ているだけで、他に首を出しているのは高い雑木くらいものです。

野中　道路は高いですか……。

松尾　高いです。大凡の最高平均水位が判っているようです。

松尾　雨季には、非常に水面が拡大するからそのためにカンボジイアとヴエトナム間は容易に鉄橋が出来ないんだそうです。

浜田　道路の脇が濠になっているんです。乾燥季でもそこは水が溜っているんです。

私が十二月中旬サイゴンに居られた松尾さんの所へ飛行機で行ったんですが、飛行機の窓から下を見下ろしたら到る所、沼の連続で、よくこれで人が住めるものだと思いました。

野中　家はその高い所に……。

浜田　ですから四メートルか五メートルの高い杭の上に立っている訳です。とても湿った所にです。

クイに長い間行っておられた三原新三といわれる方が、調査に行くのには雨季に行ったら全然駄目で乾季でなきゃ歩けん、そう云うことをかいていました通りでした。

野中　要するに帰着するところは治水の問題です。

もう調査に入った例のメコンの大治水事業と云う三〇年計画の大事業が出来上りませんと正常な農業経営が出来ないと云う事ですね。

浜田　浮稲のあるような所では農業らしいものはないですね。

佐藤　意外だったのは、乾燥季には全く水一滴もないようですが、地下水は割合高かったことです。井戸を見ますと浅いのでは二メートル位の個所から水が豊富にあるんで

すね。ですからもっと井戸を乾季の農業に使うことが必要だと思います。今のところ、全然井戸を農業に使っていない。

野中　それから何処かダムをね。あのグランラックみたいな、またこれに近いダムを方々に作って、そこへ溜めるとかと云うようなことでしようね。

それがヴエトナム、カンボジイア方面の水稲作の現状らしいんです、もっともラオスの方は多少事情が違うようです。

浜田　南ラオスのパクツセとサバナケット付近は自給自足できる貧弱な水稲栽培、それから山地には「ライ」と云って山の住民が焼畑に陸稲を作っています。

焼畑は傾斜のひどい、一六度どころか四五度という斜面でも木の株の間に陸稲を作っております。そして穂を手で摘んで収穫しているのを時たま見かけました。

高山　ラオスに関する限りは、米が不足しているんですね。

浜田　特に首府のベエンチアン方面は米が足らないようです。

野中　買おうと思っても金がない―そう云うことですな……。

ラオスは統計に依ると米産額は五二万トン、人口は大体二六〇万から三〇〇万人おると云うことです。

浜田　統計が不完全ですが、南ラオスでは余り……北では足りない。交通不便で作った所から遠くへ米を持って行けない。それで、人口の多いベエンチャンでは少し不足していて、タイ国から輸入しているようです。このタイ国は土地も肥え、農業がかなり進歩している。同じ民族でありながら大変な違いです。

独立国タイは北と云わず南と云わず立派な国道を作り農家は立派な経営をしています。

松尾　陸稲のことでちょっとお話しますと、南ヴエトナムの陸稲栽培は特殊なもので、即ち、陸稲は山手の林木等を伐木して、それを焼払って栽培している程度で、おかしい事には殆んど一回しか作らず、次々に焼払って良い土地に移って行き収量を上げていると云うことを稲作試験場の職員から聞きました。

2　果物、蔬菜

野中　稲は皆さん助長論者じゃないようですが、しからば今の治水が現状のままとして稲作に代る何かもっと有力と思われる作物はありますか……。

松尾　今の場合金になるという点では果物類が一番だろうと思われます。稲作は非常に大きな面積を持っていますが、経済作物ではないと云う感じがしまして、今後やりたいと云う問題は矢張り果樹じゃないか。果樹にはザボン並びに、みかん類その他、熱帯ものが相当栽培されていましてザボジーラ、ドリヤン、パラミツにしましても、その他グワバ類なんかでも加工もききますし、ジャムにしたり、シロップにしたりする方法もありますし、輸送も物によっては十分効くものが多くありますので、現在は稲には肥料を殆んど入れなくても果樹には惜みなく施して、どしどし殖し収量を上げている状態ですから、現地で見た感じでは果樹はこれから伸びるんじゃないかと云う気がしました。

その他貿易作物のような物が、例えばシュガーケーンとか、油を搾る作物、繊維類の作物も部分的には伸びて行くような気がしました。

現在では、果樹、蔬菜、花卉類が最もよく作られています。要するにこれは、一番手取早く作れるからということからでしょう。

佐藤　カンボジアの果物はタイやヴエトナム、それからジャバ、マラヤ等と比べ物にならない程品質が劣っています—収量も恐らく少ないでしょう。おいしいバナナも作れば出来るが、何故作らないのかと不思議に思う位です。唐力バナナが非常に多いです。どう云う理由か解りませんが。

野中　お茶はどうですか……。

松尾　お茶は矢張り山手に多いです。これは、お茶は割合に空中湿度の高い所でないと良い質のものが出来ませんからです。茶では烏竜茶のようなもの。それから本当の緑茶でなく、包種茶式のものが沢山出来て現地民の消費に当てられていますが、その他に紅茶風のものを主としてやっています。

現地のお茶は紅茶と緑茶との間にある、烏竜茶までにならない寧ろ緑茶に近い味の包種茶みたいなものが多いのですが、コロンボ、プランで日本の専門家が行ってプラオの茶業試験場に一連の製茶機具を備えつけて日本風の緑茶をつくることに成功しております。しかし、熱帯地方で緑茶が出来ても温度が高くて、例えば日本から良い緑茶を持って行きましても、初めはうまく味わって飲んでいますが、これをしばらく貯蔵して置く間に色が変りまして、あの黄緑色の倚麗な感じの色が出て来ない。味も非常に落ちまして包種茶の色に近ずいて悪いお茶の味に変って来て本当の日本の緑茶の味が出て来ない。これは貯蔵中に温度で何か自然醗酵して成分に変化を起す、そう云った状態になって

いるんじゃないかと思います。それで日本の緑茶は、向うで作る場合は製造の過程に於てもう少し考えねばならない問題があるのではないかと思います。或はその後の貯蔵保管の問題かもしれません。日本人はちょっとした味覚にも非常に優れた点を持っていて贅沢を云います。

佐藤　松尾さんのおっしゃったことと少し重なると思いますが、私は或る理想を持っています。ある有名な専門家によると、インドシナ半島はまだ手をつけずに残されたアジアの唯一の甘蔗栽培適地だと云うことですが、私はこのサトウキビと、油の原料のヤシの類とを一応考えているのです。製糖となると非常に大きな資本がいります。甘蔗畑二〇〇〇ヘクタールに一〇〇〇トン工場一つの割合として、この工場のプラントに十億円はかかるようです。甘蔗は一年或は一年半位で出来ますから、他の作物とローテイションもやって行く。

ヤシ類（ココヤシ、油ヤシ）は永年作物で収穫までに相当年数がかかるのですが、その間に間作としてコーヒーとか、カカオ、カポックとかを考えて行く。即ち全部経済作物を栽培の対象とし、繊維作物等、例えばジュートの様なものも砂糖或はコーヒー、カカオを入れる袋に使うために作ると云うように総て砂糖と油料と云うものを主体として考えて行くことです。茶とか蔬菜類の栽培は高冷地になるわけで全く別個に考えます。肥料、農機具、農薬等もこう云うエコノミック・プラントに重点を置いて使って行く。果樹の栽培もいいでしょうが、国内の需要を満たすだけで十分で―これも、ちょっと増産すれば生産過剰となるでしょう、と云って、輸出は余り則待出来ないし、国を富ますほどのものではないでしょう。

野中　貿易統計から見ると蔬菜類がカンボジイアでは輸入に依存するように見受けられますが、その観点からもう少し蔬菜を高原地帯にでも作ると云うことは出来ないですか。キリロム高原開発に園芸経営の計画があったようですが……。

佐藤　カンボジイアだけでしょう―蔬菜が不足しているのは。ヴエトナムはダラットのような蔬菜栽培地を持っていますから。カンボディアでは蔬菜は主としてプノンペン或はバツタンバンと云った大都市の付近で華僑特に潮洲華僑がやっているのが主で、カンボジイア人は殆んどやらない。クラチエ附近のメーコン河の高水敷でカンボジイア人の蔬菜畑を見たが、お話にならない程下手で、キウリ、カボチヤ、スイカ、ナス、トマト等を雑然と足の踏場もない位に混作していました。

将来高冷地ダラットに準ずるキリロム等を開発すれば高級蔬菜は国内の需要をもっともっと満たし、輸入を防ぐことが出来ると思います。現在は良いものはダラット辺から輸入しているようです。

松尾　高級蔬菜となると難しいので特に種採りの問題など、台湾でさえ日本からよい種子をあおいでいましたからね……。

平地サイゴン近郊（但し、サイゴン市から約三〇〇キロ離れた高地ダラットは高級蔬菜の供給地）に行きますと矢張り現地向きの高温に対して強い或は病虫に対して強い粗野な野菜でなければ少し無理ではないかと思います。葉菜類のねぎ等は十分に出来ますが果菜類のトマトになりますと平地では温度が高か過ぎて温度の高い時期には花粉が死にますので五月乃至十月頃の収穫は無理のようです。台湾などでもそのような点でいろいろ研究して賞をかけてやった事もあります。ポンテローガ式の物は割合に強いのですが、他のおいしいトマト類は殆んどだめで、高級なものはそのようにうまく行きません。馬鈴薯等も殆んど駄目です。採種用玉葱等も駄目です。キャベツは非常に粗野なもの―品種が違うのですが、熱帯向きのものがありまして、割合に良いのですが、しかし味の良いのは矢張り寒さに当った方が良いのです。熱帯平地の高級蔬菜と云うのは非常に難しく寧ろ、果物でおぎなって行くのが良いのではないかと思います。これ等の点も日本技術に負うところが大きいでしょう。

佐藤　私は高級蔬菜と云いましたが、決して日本流に考える高級ではなくて、一般に蔬菜類が非常に少なく、高価です。

浜田　ラオスで私が蔬菜栽培を見ましたのは乾燥季にメコン河沿岸の傾斜地に囲いをして各家庭が何坪か非常に集約的に砂地に白菜類だとか、ナスだとかいろいろのものを作っていました。

高山　それは販売用ですか……。

浜田　大部分自家用でしょうね。

そして蔬菜を作る場所が制限されて、水田地帯はカラカラに割れてしまっているのですよ。河の縁は上からか下からか毛細管現像で適当な湿りがあるのと、砂で割合肥えている。そう云う面で非常に成績が良いようですね。

松尾　平地では葉菜類は葉葱の他に、シャクシ菜式のもの、タイ菜風のもの、高菜風のもの、それから大根も出来ますけれど、あまり良いのでありません。面白いのは、日本人と違って牛蒡は何処にも作っていませんね。その他熱

帯のもので日本に無いもの、エンサイ、キンサイ、竜の豆（ヴエトナムの訳）等沢山名の判らないのがあるが、あまりおいしそうでない。辛いものや臭いものが多いようです。蛔虫よけになるのでしょう。

佐藤　牛蒡についての嗜好がない。牛蒡は日本特有のものですから。蚕豆もないがこれは花芽を作るだけの低温がないからでしょう。

松尾　蔬菜をうまく作っているのは矢張り華僑です。

佐藤　その代り随分苦労もし、工夫もしていますね。

3　技術上の問題点

野中　稲についてはいろいろ話が出たのですが、松尾さんは稲作の指導に行かれたのですが、極く大要だけ稲作の指導の結果は、こうだと云うお見込みをうかがいたいと思います。

松尾　品種改良の問題で行ったのですが、いろいろ打合せしている内に、戦前米を平年七〇万トン輸出していたのが昨今はその半分位に低下してしまったので、これを戦前の状態に復したいということで、多収穫の方法について考えているとのことでした。従って先ず日本には米が足りないので、日本向けのものを輸出の目標にしてはと話をしたのですが、向うの考えはそこまでいっておりませんで、ただ収量を上げたら良いと云う希望だったのです。そこで、それには先ずこのような粗放な栽培を改めること、つまり基礎的な栽培技術が違っているのですから稲の特性をよく知って、このような稲の苗はこう云う特性に応じて田植の時は出来るだけ若苗を使うとか、稟性を十分早目にそろえるとか、肥料の入れ具合は初期の稟性をよく生かすような方法によるとか、浅植の方法によるとか、水の掛け具合もあのように水に浸けっぱなしの状態にせず、水の管理を稲の生育期に従って換えて行くように教えたのです。直接試験場の人々とそれを見に来た技術普及員、そう云う連中と話し合い、いろいろ批評してもらった。他方、農家が感心して見て行ったのは穂が長く、そろって出ていると云うことでした。連中は老苗を使ってやっておりますので、分蘖もまちまちで、その上、深植えしたり、水が深いので更にうまく行っていないと云う所が多い。そう云う点で畦、質共に落ちるような栽培方法をやっている。又面積が広いので耐負が多い。自然一定面積に植える本数が少なくなり、あらく植えている所（例へば西南地方で三〇センチメートル×四五センチメートルの所が目を引いた）が非常に多い。ひどく粗放な栽培をやっている。結局、一つ一つ細い面で手

をとって教えた訳ですが、殆んど除草もやりません。また草も生えないような所が相当あるのです。大きな草の生えている所ではそれを見つけて除草している—除草と云うのでなくて大きな草だけを抜いている程度です。稲苗を植えれば、それで結構だと云う考えの所がある。栽培技術の指導面では特に稲の遺性を如何にして十分発揮さすかと云う点でした。そこで結局は土地を痩せさせないように有機質の十二分の施用と深耕に依る地力の増進の問題と合せて灌漑より特に排水の問題を強調しました。質の改良は第二の問題です。詳細はアジア協会誌昭和三十四年一月号に述べてあります。

野中　するとわれわれは質の問題をねらっているんだが向うでは量の問題、増産をねらっている——。

それから浜田さん、少し方面が違いますが、あなたのご専門の調査になられたところの結論だけを一つお願いします。

浜田　タイ国からカンボジイアにゆきました九月から十月は丁度雨季の最中で何処も、かしこも水田は青田の状態でございまして、稲が盛んに伸びていました。尤も早稲が極くわずかですが一部收穫されていました。この国の稲の型は大部分がインディカでホートンリツプと云う、カンボジイアの農学者に聞いてみましたら一〇%位がいわゆる日本型であろうと推定していましたが、果して事実かどうか、目下試験をやっている所です。それからラオスの南の方から北に行く程稲は糯が多くなり、この中にやや日本型らしいのが見っかってきました。そして、あのシエンカン辺りからもっと北のナムターと云う所の雲南の近くの稲は半数程は丸粒で、或は日本型に近いものかと相定しています。

目下、ヴエトナムの稲を調らべておりますが、これにまた案外丸粒がありまして、更にその特性を調べましたらどう云う具合になりますか、或は日本型が南の方にあったのを民族の嗜好に応じて多く保存されたかと云う問題がございますが、とにかく、丸粒と長粒の両方の分布状態がわかりますと大変興味があり、いま調査研究しております。これは恐らく来年春までに何とかちゃんとした結論を得たいのですが、これは一二〇〇種以上の稲籾の形態と成分の調査をしまして、その後生理と生態の調査をいたし、更に交配をやって日本稲との親和度をたしかめるものです。そういう訳でインドシナ半島はどの辺で印度型と日本型が密接、混在しているか、その分布を判明させたいと思って調査を進めている所です。

4　農家調査（農具、家具、家畜）

野中　大変長くなりましたので、稲のことはこれ位にして、高山さん、農業経営から見た現状、農家経済の大要についてお話し願います。

高山　もう少し期間があるともっと多く調べる機会もあったのですが、あまり広く見聞できませんでしたので、十分な報告ができませんが、大体普通の農家で四、五ヘクタールの耕地を持っていて家畜二、三頭、それから豚、にわとり等を飼っているようです。それから普通の農家の農具では一般に見られる犁、ハローそう云うような畜力農具がほとんどでして、機械は全然と云ってよい程入っていません。それから、小農具は、鎌、くわ、天秤棒、篩、かご等大きなものとして牛車を持っている位のものです。家屋とは別に稍の貯蔵所を建てている農家もあり、また家屋の内部にそれを持っているのもあります。牛舎も持っている家といない家とありますが、大体椰子の葉で屋根を葺いた簡単なものです。それから堆肥舎等は無いのではないかと思います。畜舎の下に少し糞を留めているのは時々見ましたが、これも蔬菜作をやる家で、特別堆厩肥舎と云うようなものは作っていません。それから家の付近には大体マンゴーとかココヤシとかバナナ、パイナップルそう云う物を少しづつ植えていて、それと自給の野菜をほんのちょっぴり作っていると云うのが農家一般の状態です。その家屋の内部に入りますと、これも建物そのものが椰子の葉で葺いたよう家ですし、ほとんど家具等はありませんが、良い家には机位があって、それが唯一の財産ではないかと思われるのです。その他で持っている物としては煮たきする鍋や、水を入れておく瓶、それから食器類、そう云う食べるに直接必要な最小限の物を持ってる程度です。その家具も、もう少し持っているのかも知れまんが、なかなか娘さんなどのいる家では見せたがらないと云う事情もあって、家計の調査は困難なようです。それから家屋の下では、はた織機械を持って副業的にやっている家も多少は見かけられます。農業生産は米が主体ですが、その他ではヤシザトウ等を作ってこれを売ったりもしています。普通の農家の米作をする農家で粗収益が年額にして一万リエール約一〇万円位じゃないかと想像されます。聞きとりの結果、大体そう云うような状態でした。こんなところが一般的な概況なんですが、地方に行って果樹地帯とか、華僑が作っている胡椒地帯と云う所では、多少事情は異ってきますが、一般は米作地帯ですから農家経済の豊かでないのが実状の様です。

野中　治水問題についてはまえにもちょっと話が出ましたが、アメリカの援助による治水工事がカンボジアで施行されているようですが、これらの批評を佐藤さん一つどうぞ……。

佐藤　橋とか道路とかは、作ればそれでプラスになることは誰でも判っていることです。

アメリカは今、大きなイリゲイション・プロジエクトをやっています。この予定地（シエムレアプ西方）に大きい沼があり、大きな水路を通じて集水地点までこの水をもってきて、ここから三方に水路を通じている。この沼は乾燥期にも水がある。灌水だけで、排水は考えられていない。全く平坦な所ですから。そこでどうもイリゲーションをする予定地は一見して瘠地だという風に感じました。実際佐伯さんの所での分析結果でも非常な瘠地のようです。このような所では、恐らく乾雨二期の稲作はできないでしょう。それから、アメリカは大きな耕耘機を試験場なんかに貸しています。しかし、それを動かすというだけで、実際には馬鹿げた使い方をしているんですね。砂質地の傾斜地をきれいに伐採清掃し、全面耕起をしている。何を植えるのかと聞いたら、ココヤシを植えるんだと云う。ココヤシはこのような植方をする必要がなく、反ってこのような事をすれば、ひと雨かふた雨降れば傾斜地のことですから表層の肥沃土が流れてしまう。得意になってトラクターの上でやっているカンボジイア人がむしろ気の毒に思えるのです。そう云う所は非常に馬鹿げていると思うんですが。松尾さんも申されたように乾燥期には水田は非常に堅くなって耕耘は出来ない。これがひと雨降ると柔くなる。そうすればあれだけ沢山家畜がいるんですから、畜力でやってしまえる。よく日本の農機具会社が向うに耕耘機を輸出しようと云うようなことを考えているらしいが、ちょっと研究の余地があるように思います。畜力機の改良なら意味がありますが。またクワ、ナタ、カマと云った小農具はもっと気のきいたものが用いられていいのではないかと云うような気がします。長い柄の先に極く小さなクワをつけている。これは怠けものがすることで楽ですが能率が非常にわるい。技術の援助や指導は徹底的に、また親身になって効果的にやることが必要だと思います。物資の供与や理論だけでは駄目です。アメリカの援助から一変な所へ入って行ったんですが―そのような感じがしました。

野中　外務省移住局の後藤事務官の報告書に依るとバッタンバン付近じゃアメリカの援助の農業機械類が入って四〇〇〇ヘクタールばかり機械化されて非常に成績が上って

いると記されております。

佐藤　その代り、それだけ人間を怠けものにし、牛を空しく遊ばせているとも云えますね。当然あれだけ牛がおれば畜力が利用出来るんですから。カンボジイアの農家は余力が出来たからといって、それを、より高度の生産に向けることは考えないようです。

野中　次にフランス人経営のカンボジイアでのゴム園とか或はヴエトナムでもそうでしようが、プランテーション農業ですね。これについて一つ……。

浜田　カンボジイアとコーチンシナがインドシナのゴムの主産地ですね。カンボディアが三万ヘクタール、コーチンシナが一〇万ヘクタールと称せられ合計一三万ヘクタールに達するように聞きました。中部と北部のヴエトナムにもあるようですが、それは今のカンボジイアとかコーチンシナと比べると遙かに劣るような成績になっております。私は実際カンボジイアの赤土地帯の中を往復してゴム園を何カ所か見てまいました。もう一つ灰色地帯の所にもゴム園があるということですが、これはヴエトナムにあるんじゃないかと思うんです。このテルルージュ（赤土）のありますコンポンチヤムの近くのチユツプだとか、スヌール当りはやや高台でありまして、数十年来フランス人が経営して成功しております。実に整然たるもので、私はゴム園の立派さに心中驚きました。あそこの技師長たちが大変親切に私達を案内してくれましたので経営上の苦心がよくわかりました。大体七年生のヘベア（ゴムの樹）を育てまして樹からラテツクス（乳液）を取っている。三〇年或は四〇年、所に依ってはそれ以上六〇年以上の老木までも役立つと聞いておりますが、あそこでは三〇年前後のが最も現役でラテツクス採取を行なっていました。毎朝早く現地人が出て行って大体七時頃から十一時頃までにラテツクスを取って午前中には殆んど全部すませ、午後は集荷してしまうと聞きました。カンボジイアとコーチンシナを合せて生ゴムが五万トン或は六万トン取れるようです。詳しい統計については存じませんが、そのゴム栽培に依ってフランスとカンボジイア或はヴエトナムもそうかも知れませんが、大変経済的に結びつけられておる産業のようでございます。このようにしてゴムのプランテーションを通じて昔の勢力をかろうじて維持しておるのではないか、もっともゴムの他胡椒なんかも相当研究しておりましたが、プランテーションと云うと胡椒、茶、コーヒーなんかよりもゴムが重要なもののように思われました。

四、工業その他の産業

野中　それで農業の方を大体終りとしまして、今度は林産関係或は水産関係或は更に工業と云いましても恐らく軽工業でしようが、と云うような産業一般について一つ簡単に触れていただきたいと思います。

佐藤　林産については、私はずぶの素人ですが、南方には木が多くあるから、それをすぐ利用出来るように考える人がいるようですが、大体ジャングルは雑木林ですから有用な木がありましても、それを選び、運び出すのは非常に困難なことであります。向うのパルプ資源の調査も学術的には意味があるでしようが、実際化はいろいろの困難を伴うでしよう。しかし、所によっては単生林と云いますか同じ樹種ばかりの所もあります。そう云うものを研究すれば将来経済的になり立つかも知れません。又最近ホモーゲンホルツと云うようなものができると云うことですが、これは樹種はどのようなものでもかまわないらしいので、とにかく、こうなれば、沢山あるのですから研究次第で資源化されることは十分考えられます。

それから海岸にはヒルギの類（マングローブ）がありまして、タンニンも取られ、プノンペンの皮廠でこれを使っていました。腊薬にして来たカンボジイアウルシも非常に有用なものです。キリロムの辺には非常に沢山松がありますし、又コンポンチャム東北方辺の平地にも松があります が、これは雑木林の中に点在し、これから松脂を採集しています。キリロムの松は土地が瘠せている関係か、生長量が非常に小さいことが持ち帰った標本から判断されます。小さい製材工場を華僑や、時にはカンボディア人も持ってやっています。

松尾　今お話しがありましたように結局その資源を搬出する交通の問題即ち奥地からの交通路の問題になりますが、特に労力の問題で非常に労賃がかかると云う点で、嘗ては松脂の採集などで日本の商社が集まってやったらしいが、どうもコストがあわずお流れになっております。

それから、今現地でやっているのは、先に云ったタンニンの問題、特にマングローブの問題の場所は割合早く吐き出せる所にあるものですから、その点は良いのですが、林産物には立派な木が非常に沢山ありますが、それでも運賃、労力の問題で伐採に非常に金がかかりますので、今のところ、そう云うような基礎になる施設がないので低調です。しかし将来は伸びる可能性があります。今年コロンポ

プランでベニヤ関係の技術者が日本から派遣されました。ベニヤにするのに非常に良い木があるそうです。将来性があります。林産物は豊富ですから、これを伸ばすにはそう云う方面から着手するのではないかと思います。水産面では大洋漁業の連中がサイゴンに行ってやっていますが、次第に現地の人がその方面に盛んに入って来ていますし、漁獲のコツも覚えてきたものですから魚をとるのにトラブルを生じている状態で、問題が起ったことを時々聞きます。それで日本大使館でも水産関係は、もう出来るだけ新しい人は来ないようにと云うような指令を会社方面に出している状態です。運河が発達しているし、海も近いので向うの人は船乗の技術には非常にすぐれているのです。船なども丸木舟のような簡単なものを造って、その舟で夜間灯の無い暗い所を行ったり帰ったりするような技術を先天的に身につけているそうです。ちょっと信じられない程うまいところがあると云うことを日本からボートやヨットなどの小さい舟を造るのに指導に行った人が感心して話してくれました。従って水産関係は、もう彼等のものです。林産物はまだまだ奥地に相当あります。工業方面では、ヴエトナムは勿論、農業国でして軽工業もどうかと思うような状態です。ですから日本の賠償金を目当にダニームにダムを作って今後は肥料の製造とかセメントその他の工業の開発をねらっている。即ち電源開発によって、どしどしこれらの工業を興して行こうと云う計画が立てられていますから、将来はそう云う方面に伸びて行くと思います。しかし現在は時計を作ってビナ(VINA)と云う名で、盛に宣伝している程度です。

他にココ椰子のオイルをしぼる工場やパイン罐詰工場、そう云うのはありますが、組織の小さいもので、全般的に工業は問題にならない状態です。

野中　どなたかまだ他に、これ等の問題について……。

佐藤　ヴエトナムがその程度ですから、カンボジイアじゃ問題にならないのです。ところがなんか云うとすぐ、最初から機械や電気その他の所謂大工業をカンボジイアの要人等が望むように聞きますが、これは無理なことですし又適当ではないと思います。農業国ですから農業を起してこれに付随した工業からまず出発する、そして国力を養って大きな工業に進んで行くのが常道だと思います。例えば砂糖キビを作って砂糖の製造、これは随分大きな工業なのですけれど、それから搾油、澱粉工業を起すとか或は棉を栽培し織物をやると云うことから入って行くべきで、今ヴエトナムの時計製造工業と云うことを聞いてびっくりしたのですが、カンボジイアの場合これさえ考えられないのじゃ

ないかと思いますし、又もっと生活必需品の生産が望ましい……。

浜田　ちょっと、つけ加えますが、ラオスでは山林にまだ手がつけられないでいます。チークその他の有用樹種が沢山あるようですが、一向に利用されておりません。私共の見た限りでは、炭焼小屋が道の近くに所々あり、直径二〇—三〇センチの炭を作っていました。この外に林木の利用と云うのはほとんど見うけられませんでした。水産業も生鮮魚の利用位で、これを塩蔵しているのはあまり多く見うけられませんでした。川や水溜りで小さな魚を主婦が日常の副食物に取る位です。大きな魚は仏教のせいかラオス人は取らないと云うような具合です。漁業は主にヴエトナム人がやっていたようです。

それから工業ですが、私の見ましたところでは専ら手工業程度で、綿織物の外に錦を手織していました。これらは高い桟のある家の床下で、はた織を使って娘達が織っておりました。それからラオスも乾燥季は水が少ないので水を溜めたり、いろいろな風に壺を必要とするので、その陶器類を相当作っているのを見ました。その他タイ国ではセメント工業が若干バンコックの近くでありました。又プノンペンの田舎でもセメントをやっているのを見たように記憶しています。

それから砂糖ヤシから砂糖を採っており、また、手工業でありますけれども、工芸品、象牙の工芸品と云うのがあります。それから極くわずかではありますが、ストントレンあたりでは宝石が出る。これの将来の利用価値はどうかと云うようなことを聞かれましたぐらいで、ほとんど工業らしいものも見受けません。ただビールとか清涼飲料をあの国で会社を作って相当大きくやりかけているのを見かけた位のものです。

野中　マッチ工場の大きなのがサイゴンにある。それをフランス人が経営していたのを日本人に引き取ってほしい、と云う照会が来ているんだ—と云って話していましたけれども、ご存知ありませんか。これまでインドシナ三国はその工場で賄っていたらしいと云うことですが……。

佐藤　カンボジイアにはマッチ工場が華商から招かれた一日本人の指導で出来たと云うことです。

松尾　マッチ工場はサイゴン市内にあるのでしょうが見落しました。その他に採油とか専売局のタバコ等の問題、それから製紙工場、紡績工業ではジュートを使ったもの、また織物の羽二重、特に手工業の絹工場があるんです。しかし現場を余り見ておりません。一番多いのは精米工場で

す。大きな都市には何処にもあります。サイゴン市の西南チョロン市には特に多く大きなものがあります。華僑の力で動いているようです。運河をはさんで両岸に一〇〇〇メートル位の間にずらっと並んでいます。然し、動いているものは三分の一位のものでしようね。戦前はアルコール工場がありましたが、皆つぶれてしまっている。その他にサイゴン市内にフランス人経営のビール会社の大きなのがあります。目に留まったり、聴いたものはこの位のものです。ただ残念なことはゴムの工場を見る機会がなかったことです。

佐藤　清涼飲料は日本のある商社から照会が来ていましたが。どんなものか情勢を知らしてくれっていうのです。又ウルシのことも聞いて来ました。

野中　それでは長時間いろいろなご見聞とご意見を伺いました。不備な所もあるかもしれませんが、これをもって終りに致します。皆さんまことに有難とうございました。

了

派遣課